独立行政法人福祉医療機構・令和４年度（補正予算）社会福祉振興助成事業

「コロナ禍で広がる不登校とひきこもりの子ども・家庭へのサポート事業」報告書

令和６年（2024 年）３月

特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎

はじめに

私たちは、千葉県東金市を中心に「本人の思いや願いを受け止め、生きる力を地域で支える」を基本理念とし、子どもやお年寄り、障がい者など、地域に住む誰もが住み慣れた家や地域で、これまでの人間関係や生活を維持･継続しながら、自分らしく暮らし続けられる地域社会の実現を目指し活動を行っています。

近年、私たちが特に関心を持ち、積極的に取り組んできたことは、様々な事情で「生きづらさ」を抱えながら地域で暮らしている子どもとその家庭への支援です。

平成 29 年度に WAM の助成を受け、市内の中心部に支援拠点の設置とコーディネーターの配置を行い、生活困窮世帯の子どもを対象とした、学習支援、社会体験、居場所づくり等を実施し、子どもやその家族、関係機関からの大きな評価を得ました。一方で、ネグレクトをはじめとした児童虐待や障がい・病気で十分に子育てができない親と家庭の子どもの課題も見えてきたため、対象や地域、支援の幅を広げながら平成 30 年度、令和元年度、令和２年度と WAM 助成を受けて事業を行い、令和３年度以降は、地域と自治体、教育・福祉関係機関等の協力を頂きながら事業を継続し、子どもとその家庭への支援を行ってきました。

しかし、コロナ禍で広がる不登校と子どものひきこもり状態は、年々悪化の一途にあり、不登校とひきこもりへの理解と地域にあった受け皿、支援方法の在り方が課題となっていました。

そこで、今回（令和５年度）、令和４年度（補正予算）ＷＡＭ事業の助成をうけ、「不登校児」や「ひきこもり及びひきこもり予備軍の子ども」を対象に、「安心できる場（相談窓口･受け皿）」「信頼できる関係（不登校とひきこもりの理解、理解する専門機関・大人づくり）」「個性や可能性が認められる環境（支援方法・仕組み）」づくりに取り組んできました。

今回の事業を通じて改めて確信したことは、各種関係機関及び地域の多様な人達の関心が極めて高く、受け皿と伴走型支援が不可欠であることです。そのため、次年度以降も、関係機関と地域の協力を得ながら、活動の継続を実施してまいりたいと考えております。

最後に、今年度も助成いただいた独立行政法人福祉医療機構をはじめとし、東金市（社会福祉課・子ども課を主とした関係各課）、東金市教育委員会、東金市内の学校関係者、スクールソーシャルワーカー、東金市社会福祉協議会、地域のボランティア等多くの地域の皆さまの多大な協力により本事業を実施・運営することができましたことに深く感謝申し上げます。

ここに事業の成果をご報告するとともに、今後も「くつろぎの場ちる」の活動にご理解とご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和６年３月

特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎
代表理事　　宮　下　裕　一

「コロナ禍で広がる不登校とひきこもりの子ども・家庭へのサポート事業」報告書

目　次

第１章　事業内容・実績　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

　１　相談支援事業

　２　アウトリーチ支援

　３　居場所・学習支援

　４　啓発活動

　５　報告会・報告書

第２章　事業評価　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　49

　１　子どもの評価

　２　講演会・報告会等の評価

　３　今後に向けた課題

第３章　今後にむけて（まとめ）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　59

参考資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　63

第１章　事業内容・実績

1　相談支援事業

1）体制の整備

(1)拠点の概要

①拠点名称「くつろぎの場ちる」（千葉県東金市東新宿 12 - 22）
②開所日数　概ね週３日間
③開設日　　週３回月・水・木　※応相談
④開設時間　13:00～19:00　　※応相談

※看板デザイン

(2) 対象者及び利用方法

①対象者

・不登校の小・中・高校生等
・引きこもり状態にある子ども
・フリースクールにも行きづらい子ども
・生きづらさを抱えふさぎ込んでいる子ども
・上記の状態にある子どもを抱える保護者

②利用方法

各種相談支援機関、学校、行政機関、スクールソーシャルワーカーなどから子どもとその保護者が繋がれる。面談後、初回体験的な利用をして、その後状況に合わせて利用を開始する。

③料金等

利用に伴う料金及び食事・体験等の実費等負担はなし。完全無料。

(3) 支援体制

コーディネーター（非常勤職員） ５名
社会福祉士、精神保健福祉士、元教職員及び福祉・教育関係相談員経験者等

(4) 運営会議

この事業をより効果的に実施するため、協力いただいている期間・団体を中心に運営会議を開催した。

（メンバー）

No	所属・団体名	氏　名
1	東金市役所　社会福祉課	小山　和哉
2	東金市役所　子育て支援課	豊田　慎吾
3	東金市役所　子育て支援課	林　喜美子
4	東金市教育委員会	古川　寛之
5	東金市社会福祉協議会	北田　兼久
6	山武ボランティア協会	土肥　豊
7	東金市立丘山小学校	石川　和彦
8	スクールソーシャルワーカー	谷野　宏輝
9	訪問相談担当員	柿崎　美恵子
10	大網白里市役所　社会福祉課	高師　卓也
11	大網白里市役所　社会福祉課	板倉　音羽

コーディネーター：５名
法人事務局：２名

＜第１回運営会議＞
開催日時：令和５年５月 25 日　13:30～14:30
場　　所：学び舎・ゆーすぽーと
出席人数：11 名（東金市社会福祉課、東金市教育委員会、大網白里市社会福祉課、山武ボランティア協会、他）
議　　題：a. 令和５年度の計画について
b. WAM 助成事業の具体的な内容について

＜第２回運営会議＞
開催日時：令和５年 12 月 20 日　14：00～15：00
場　　所：くつろぎの場ちる
出席人数：14 名（東金市社会福祉課、東金市子育て支援課、東金市教育委員会、東金市社会福祉協議会、大網白里市社会福祉課、他）
議　　題：a.「くつろぎの場ちる」の活動について　※７月～11 月
b. 令和４年度（補正予算）社会福祉振興助成事業進行状況報告について

＜第３回運営会議＞
開催日時：令和６年２月５日　14：00～15：00
場　　所：くつろぎの場ちる
出席人数：15 名（東金市社会福祉課、東金市子育て支援課、東金市教育委員会、東金市社会福祉協議会、東金市内小学校長、ＳＳＷ、訪問相談担当員、他）
議　　題：a.「くつろぎの場ちる」の活動について　※12 月～１月
b. 令和６年度の計画について

２）相談支援

当本法人が 2017 年よりＷＡＭ事業の助成を得て開設・運営してきた子どもの多機能支援拠点「学び舎・ゆーすぽーと」（以下「ゆーすぽーと」と略す）は７年を経過して、開設当初、主として対象にして来た生活困窮家庭の子どもに加えて不登校・ひきこもりや教室に入れない別室登校などの要因を持つ子どもたちの相談・利用も増加してきていた。

そうした背景があって、今回の令和４年度（補正予算）社会福祉振興助成事業の「コロナ禍で広がる不登校とひきこもりの子ども・家庭へのサポート事業」に応募するに至った。

「ゆーすぽーと」の活動として受け入れていて、新拠点の「くつろぎの場ちる」（以下「ちる」と略す）に引き継いだ不登校要因の利用者が 10 人いた。新事業の「ちる」として活動開始後は５人の新規利用者がいた。

15 名の「ちる」利用者とその保護者、従来からの活動である「ゆーすぽーと」利用者と保護者、利用者が所属する機関や支援を行っている関係機関や専門職の方々などの主対象の人達、加えてさまざまな機関や利用者から紹介された人たちにも広げて相談支援活動を行って来た。

今年度は、「ちる」及び「ゆーすぽーと」利用者の中に、進学対象者が６人いて、進路に係る相談件数が非常に多かった。内一人は、親が教育への関心が低くネグレクト状態にあること、そのことも関係して本人が不登校であったため、進路に関する相談は全て「ちる」で行い支えてきた。小学４年生の２学期から不登校になり、中学校３年間も不登校が続いていた子が中学２年生から「ゆーすぽーと」、「ちる」に繋がり、高校への進学の夢を抱くことができるようになり、この春無事に高校進学を果たすことができた。

もう一人も中学校を不登校のまま卒業してそのまま自宅でひきこもり状態であった親が、外に支援を求める事への忌避感があり、孤立状態で情報も乏しく子どもへの働きかけが弱かった。その状態を把握した福祉担当者が根気強くステップを踏んで「ちる」につなぎ、「ちる」での相談・支援で通信制高校への進学が決まった。

「ちる」利用者の中には、高校中退者や中学校で不登校になり卒業後そのまま引きこもってしまっている子や成人に達した子たちも引き受けており、職業相談のケースもあった。

(1) 相談回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者	8	6	5	4	3	5	8	9	19	21	29	27	144
保護者	6	7	4	7	5	6	8	7	12	6	9	6	83
関係機関	12	10	15	13	9	10	14	16	8	12	5	14	138
計	26	23	24	24	17	21	30	32	39	39	43	47	365

(2) 相談内容

＜利用者＞
・「ちる」で過ごす中での人間関係の悩み
・家庭内でのもめごと
・生活の悩み（食事、住環境、衣類など）
・学校生活
・進路に係る事
・その他

＜保護者＞
・家庭内でのもめ事
・経済的な困窮
・不登校
・子どもの学校生活での悩み
・進路に係る事
・その他

＜関係機関＞
・「ちる」、「ゆーすぽーと」の利用に係る事
・不登校児童・生徒への対応
・その他

(3) 職業相談のケース

通信制高校に進学したものの高１の途中で通えなくなり退学してしまった。その後は自宅に引きこもる日々を過ごしている。母と成人している兄と認知症の祖母とともに暮らしているが、母と兄は働きづめで、家にいないことが多く、祖母の認知症が進行し徘徊が始まってからは本人が祖母に付き添っている。不登校が長かったため近隣に友人は少ないが、インターネットで知り合った顔も知らない人物と連絡を取り合っている。

〈課題と背景〉

本人の理解度や話しぶりから知的等の障害を抱えている可能性が高いが、主に母が障害受容できず学校側からの働きかけを拒否し通常学級在籍にこだわったため学生時代にサポート学級等での支援を受けることが出来なかった。学生でなくなった現在は、しきりに働くように言われるものの集団生活をおくってこなかった事もあり就職活動も何から手を付けてよいかわからず引きこもってしまっている。

〈今後の方向性〉

本人は自分のことを「うつ病かもしれない」と自己診断しており、病院にかかることへの拒否感はない。そのため精神科の受診を兼ねて発達検査も実施し本人の特性を見極めることが出来るとステップアップにつながると考える。

(4) 相談支援体制

２名の精神保健福祉士を中心に教職経験者２名を加えて、４人体制で相談支援事業を行って来た。

〈相談の様子〉

２　アウトリーチ支援

(1) アウトリーチ回数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
20	21	8	14	16	17	18	22	24	17	16	9	182

(2) アウトリーチを行った理由
①ひきこもりの子がいる家族からの要請
②「ちる」利用者で利用が滞っている子への対応
③「ちる」利用者の兄弟関係で気がかりな子への対応
④「ちる」利用者の送迎を兼ねて家族と面談し困りごとの把握
⑤「ちる」利用者の気持ちを家族に伝える

(3) アウトリーチを行う際に連携した機関
①東金市教育委員会
②大網白里市子育て支援課
③訪問家庭の利用者の所属学校
④県派遣「訪問相談担当教員」
⑤スクールソーシャルワーカー

(4) アウトリーチで「ちる」利用に繋がったケース
Ｃさんの例
（※後述の居場所・学習支援の（３）新規利用者のケースのＣさんと同一人物。）

中学３年生で進路のこともあり心配していた母親から相談を受けていたが、昼夜が逆転しているＣさんには訪問を重ねてもなかなか会えずにいた。
妹が兄同様、集団適応が苦手で相談室登校していて、「ゆーすぽーと」から「ちる」に継続利用の子で、送迎を必要としていたのでそのたびにＣさんに必ず声がけをしてきた。
生活のリズムがずれていたが、ごくまれに会うことができ会話することができた。しかし、「ちる」利用には難色を示していた。音に敏感な子で、妹から聞いてきた「ゆーすぽーと」の喧騒を嫌っていたのかもしれない。「ちる」は全く違う建物で静かな環境だと伝えたが機は熟さなかった。
一方、訪問相談担当教員も訪問を重ねて「ちる」の情報発信をしてくれていた。互いに連携してＣさんの行動を把握して接触できる回数も増えてきて、彼の高校進学を希望の意思を把握できて、その支援からアプローチして「ちる」利用に繋がった。
「ちる」の利用が始まると学校との連携も取って、担任の先生が「ちる」で進路に関する手続きなどの支援も行えるようになってきた。
入試当日も訪問相談担当教員、学校、「ちる」が連携して家族を支援し、無事受験を終えることができて、見事合格した。

３　居場所・学習支援

(1)「ちる」の利用者数　15 人

	小学生	中学生	高校生	合　計
「ゆーすぽーと」から継続利用	６人	３人	１人	10 人
「ちる」開設後の新規利用者	１人	２人	２人	５人

※ 高校の欄には中退者や中学卒業後ひきこもり状態になっている子も含む

(2) 延べ利用者数　464 人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
小学	39	44	12	19	17	21	22	15	9	10	6	5	219
中学	19	15	16	20	18	18	17	13	20	19	23	12	210
高校	10	3	2	1	0	4	4	3	3	2	2	1	35
計	68	62	30	40	35	43	43	31	32	31	31	18	464

※高校の欄には中退者や中学卒業後ひきこもり状態になっている子も含む

(3)「ちる」新規利用者のケース

〈Ａさん〉

両親と 3 兄弟で同居。3 人とも不登校で複数の支援機関が関わっている家庭だが、特に父の行政不信により介入が困難な状況が続いていた。
中学を卒業し自宅にこもっていた長女に対し市の相談員が時間をかけて働きかけ、「ちる」へ定期的に通うようになった。ともに時間を過ごすうちに進学への意欲が湧き高校進学を目指すことになり準備を開始。途中疲れが見えて休むこともあったが受験対策や願書提出等のサポートを行い進学が決定した。
長女が「ちる」に通う中で同じく不登校である二女も一緒に来所するようになり、現在は相談員とともに二女だけで通うことができるようになっている。

〈Ｂさん〉

両親と 7 人兄弟の 9 人家族。両親の関係が悪く幼い兄弟の面倒を年長の兄弟で見ている慢性的ネグレクト状態にあった。そのうち長男が中学進

学直前に不登校になり、末妹が生まれたばかりで傍にいたいとの理由であった。家族仲が良好であったため市ではケースとして対応はしていない家庭であったが、心配した訪問相談担当教員からの紹介で「ちる」利用を開始。継続して通い関係ができたところで本人より、いじめに遭っていたことが打ち明けられ、胸の奥に押し込めていた思いの発露に至っている。
家庭内では拾ってもらえなかった思いを受け止めてもらえる安心感やあたたかさ、自分のためだけに使える自由なくつろぎの時間・空間を得ることができたのではないか。

〈Cさん〉
母が離婚再婚を繰り返しており、現在は母と継父とそれぞれ父の異なる兄弟数名とともに暮らしている。本人は中学進学後から不登校気味になりだんだんと通学できる日数が減っていき、途中から完全に不登校になった。
妹が「ゆーすぽーと」につながりおおむね定期的に利用しているため、本人へも不定期に声掛けし、たまに顔を出すこともある。

〈Dさん〉
19歳定時制高校中退。
高校での人間関係がうまくいかず気持ちが不安定になった。不登校が続き単位が取得できなかったこともありその後退学。基幹相談支援センターから地域のSSWを通じて「ちる」の見学を実施。活動には楽しく参加できたものの、長時間滞在すると疲れが出てしまうため、参加時間や日数を調整しながら継続して通っている。

(4)「ちる」の学習支援

「ちる」利用者の多くが、長期の不登校体験者で数学年に渡る学習内容の履修がなくて基礎的学力に欠けていた。そのためほぼ全員が対面での支援が必要となったが、粘り強く継続したことで自学ができる段階に進んだ子もいた。相談支援事業の項目で既述した子はその典型で、５年間のブランクを少し取り戻し、新しいステージの高校生活に意欲を膨らませて、学びなおしの決意を固めている。

＜「ちる」の学習支援の様子＞

(5)「ちる」の体験活動

「ゆーすぽーと」からの継続利用の子たちは、楽しみながらたくさんの体験を積んでいくうちに多くの学びを得て自信を育んできている。「ちる」開設後に繋がった新規利用者はなかなか参加できていなかったが、遠巻きに活動を見て興味を示したり、体験活動で出来上がった料理を別室で食べることができたりする子もいた。中にはいきなり集団の中に飛び込んで活動に参加する子もいた。

	体験名	実施日	参加人数	場所・備考
①	親子でいちご 玉ねぎ狩り体験	4/29（日）	39 人	内山農園 大網白里市
②	リモートでハンガリーの大学生とお話会	5/10（水）	19 人	ゆーすぽーと
③	兜づくり	5/11（木）	18 人	ゆーすぽーと JIU 学生企画
⑤	スポトレ	6/18（木）	4 人	白子町・関小 大多和医院企画
⑥	七夕の集い	7/6（木）	16 人	ゆーすぽーと JIU 学生企画
⑦	花火大会	8/26（土）	11 人	しいの木 JIU 学生企画
⑧	かるた大会 (エコかるた)	9/27（水）	14 人	ちる JIU 学生企画
⑨	紙芝居	10/11（水）	13 人	ちる JIU 学生企画
⑩	ハロウィンイベント	10/26（木）	14 人	ちる JIU 学生企画
⑪	アイロンビーズづくり	11/2（木）	10 人	ちる

⑫	芋煮会	11/29（水）	21 人	ゆーすぽーと ちる
⑬	衣料品無料市	12/2（土）	19 人	ちる
⑭	クリスマス会	12/18（月）	18 人	ちる ゆーすぽーと
⑮	つきたて餅を食べる会	12/25（月）	11 人	ゆーすぽーと ちる
⑯	おでんまつり	1/17（水）	11 人	ゆーすぽーと ちる
⑰	出張ラーメン店体験	1/22（月）	17 人	ゆーすぽーと
⑱	新春かるた大会	1/25（水）	14 人	ちる
⑲	恵方巻きづくり	2/1（木）	15 人	ゆーすぽーと

※　参加人数の中には「ゆーすぽーと」利用者の人数を含まれている。

＜体験活動の様子＞

４　啓発活動

不登校とひきこもり児童の実態の把握と潜在的なニーズの発見をし、関係機関に本事業の必要性の理解を深めるとともに、生活困窮世帯、ひきこもり等の課題を抱えた世帯に対する支援への共通認識の醸成を図るねらいで、その分野に造詣の深い方々に講演をして頂く機会を３回計画した。

しかし、「ちる」の開設準備が整うのに時間を要したため短期間で３回実施のタイトなスケジュールになったことと、子どもたちの心に直接響く体験をさせたいと考えて対象と趣向を変えて実施することにした。たまたま、「ちる」に繋がった子の保護者の知り合いに世界的に活躍する音楽家がいて、素敵な演奏と子どもたちを勇気づけられる体験談を届けられると聞いてオファーしたところ快諾を得ることができ、後述の「ドリームビッグコンサート」開催となった。

(1)講演活動

①第１回の概要

期　日：令和５年 11 月 26 日（日）
時　間：13：30～16：30
場　所：東金商工会議所４階　中ホール
テーマ：「LGBTQ と不登校への理解」
参加者：一般対象
参加数：一般 28 名　、「ちる」運営者　８名　計 36 名
講　師：沼倉　智美 氏

講師プロフィール：

現在高校生のトランスジェンダーの子を持つ母親。
2018 年 1 月に「ちば LGBTQ フレンズ」を立ち上げた。
学校や日常生活での悩みを共有し。前を向くための交流会や社会的理解の向上を目的とした講演会やイベントを開催している。
本職は、児童発達支援事業所で働く作業療法士で、不登校予備軍になりそうな子供たちや家族の支援をしている。

＜講演の様子＞

＜受講者の感想＞

●テレビや周りから聞くことはありましたが、詳しく理解はしていなかったので自分の中での理解が間違っていたと今気づくことができて良かったです。本日は、貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。

●身内に FtM の人がいるので、本人やご家族がどんな気持ちだったのか改めて分かりました。また、中学・高校時代 FtM だったのかな？という方もおり、その当時は LGBTQ という言葉を知らなかったので、勉強になりました。

●LGBTQ への理解が深まりました。特に当事者の状況、人それぞれの生きにくさを認識することができました。

●子どもとバイアスがかった大人は本当に相性が悪く、子どもの言動に出ます。寛容な人々が増えるといいです。寄り添い、どう捉え解釈し、どうしていくのか... 世の中には必ず寛容な方がいて、そうでない方もいます。そういった寛容な方が、子どもたちが集う組織や大人の社会で導く立場にいていただきたいです。こうした取り組みがこれからの社会にとっての布石となるように思います。

●養護教諭です。２回目のお話でしたが、今回は更にジェンダーについて自分についても考えて聞いていました。男、女ではなく「自分」を考え

るよい機会になりました。
学校での健診も今は男女混合で行うことが多くなっていますが、それよりも個のプライバシーを守るように実施しています。個室に入って小便をする男子児童も増えています。

●当事者や家族の困難を知ることができ、大変参考になった。小さい頃から多様性を教えていくことやその人の立場になって考えでいくことが大事だと思った。

●目の前にいる困っている人が楽しく生きられるように、理解することや安心できる場所をつくっていけたらと思う。

●自分はLGBTQについて多少の知識、理解があるつもりでしたが、性的自認、性的指向など自分の知らなかったところを知ることができてとても勉強になりました。また、当人以外の友達、親御さん、周りの人などのバイアスを取り払っていくことが大事なのかなと思いました。そのためにも、今回の講演を機に、性への知識を深めようと思いました。

●LGBTQ の話を詳しく聞いたのは初めてで、自分の近くにはない環境だったため興味深く聞かせていただきました。家族の思いや３人の子どもの母としての葛藤ももう少し聞きたかったです。

●保育園でLGBTQへの対応をしていくことが必要だと思っていなかったためとても勉強になった。また、全ての子どもたちが過ごしていくのに最適な環境づくりをすることへの学びにもなった。

●70代を前にして、古い世代の一人として若い人がその人らしく生きるための差別をなくすためには世代交代を繰り返していくしかないのかな？と思いました。

●言葉は知っていても意味が分からなかったが、少しわかりました。

●「性別にとらわれず、自分らしく生きる」、「差別・区別」など当事者の方の困難が良く理解できたような気がします。

●最近テレビ界でも盛んに聞くようになった言葉に今日は知りたいという気持ちから参加しました。実際にお話を聞いて自分が固定観念にとらわれていたことに少し反省しながら、一緒に寄り添いもう少し自身で勉強しなければと痛感しました。

●自分の周りにもLGBTQの方がいますが具体的に何が困るかなどについて話すことはないので、本人の困りや親としての困りを知ることができて良かったと思います。まだまだジェンダーバイアス、「らしさ」は多くの人の中に意識の外であると思います。大人の何気ない言葉がけが子ども

に影響するのですね。

●自園でも“出席番号順“に関して少し悩みましたが、男女ではなく生年月日順にしました。また、「どんな色が好き？」の歌を保育士が歌うと男女関係なく”好きな色“を言ってくれます。男の子がおままごとをすることも、人形のお世話をすることも大歓迎です。差別と区別も大切にしていきます。ひとりひとりの子の思いを大切に明日からの保育に役立てていきます。

●今回の題材は最近のニュースで聞く程度で身近には感じていなかったが、皆が正しい知識を学んでいけたらもっと世の中が明るくなるのではと思いました。

●私の周りにはこういった問題をかかえている人がいないため、貴重な話を聞けて良かった。やはり実際自分の子がそうだったらどんなに悩むだろうか？当事者の気持ちや意見を聞くことができてよかった。

●LGBTQ について、実際のお話をまじえてわかりやすい具体的な内容だったと思います。トランスジェンダーの母親、支援者としてのお気持ちがよく伝わってきました。

●実体験をもとにとても整理された資料をご準備いただき、とても分かりやすく勉強させていただきました。地域支援を続けていく中で LGBTQ の子とお会いする機会は今後もあると感じておりますので、今日のお話を生かせていけたらと思いました。ありがとうございました。

●まず、LGBTQ について詳しく知ることができて、より知識を深めることができました。また、実際に経験した話を聞いて、「言葉」というものは些細な一言でも傷つけてしまう、殺してしまう、凶器になってしまうということを改めて実感しました。

●今後 LGBTQ やいろいろなことで悩んでいる子どもたちに対して、どのように向き合っていけばいいのか、そして自分はどのように生きていこうかということを考えるきっかけになりました。貴重な話を聞けて本当に良かったです。

＜受講者の意見＞

●ひとりひとり違っていい、違うことが素晴らしい、と思えたと同時に伝えていきたい。

●今後 LGBTQ で悩む方と関わることがあれば力になれたらいいなと思いました。

●沼倉先生のお話を伺うのは２回目です。前回の沼倉先生の講演を聞き、その後すぐ LGBTQ に関する掲示物を作成しました。多様性について伝える必要性を強く感じたからです。今後も肯定的に受容できるよう発信し、支援していけるようにしたいと思います。

●今を大切になるべく健やかに暮らせるように、ありのままでいいんだよと自他ともに受け入れることができるように最善を尽くし、対処していくこと、理解ある人と共にいること、知識を持つこと、フラットなものの見方、アンコンシャスバイアスが個々どのあたりにあるのか把握しバランスをとってどのあたりを最善解としていくのかコミュニケーションをとっていくこと、「みんな違ってみんないい」「大丈夫」という言葉が必要だと感じた。

●個を尊重できる対応ができるようにしていきたいと思います。小学生低学年は性別だけでなく凹凸した性格が強くでている子が多く見えるので、それぞれに寄り添っていけるように心がけていきたいと思います。

●沼倉先生のお話を伺い、不登校の児童・生徒の中に一定数の LGBTQ の子どもたちがいることがわかりました。今後教員として、先生のお話の視点を持って学級経営をしていきたいと思いました。

●ジェンダーバイアスやアンコンシャスバイアスに気をつけて意識していきたいと思った。多様性について理解し、一緒に考え、肯定的なメッセージを発信していきたいと思う。ありがとうございました。

●今回この場で初めて知ることのできた、性への知識、発達の凹凸についてとても興味深く、勉強になりました。また、ひきこもってしまっている子については、どんな理由でそうなってしまったのかを今回の講演で得た知見を基に考えていけたらなと思いました。

●子どもの話を聞いていくこと、その子の気持ちに寄り添っていくことが必要だと感じた。

●子どもが素直に相談できる環境づくりをするということは大前提とし、相談されたことを受け入れ、よく考え、自分の未熟さを相手にもしっかりと伝えたうえで、一緒に勉強していくことが大切だと思った。日々どうしたらよいかを独りよがりで考えるのではなく、一緒に考えていくことが必要だと感じた。

●まずは「理解すること」の大切さ。その人らしく生きることを尊重することが必要だと感じた。

●私の周りにもお孫さん、子どもさんの悩みを聞くことがあります。アドバイスはできませんが、話を伺うことくらいでいいのでしょうか？

●学校（国の教育方針）が変わることが必要ではないかと思います。しかし、それはすぐには変わらないので現状どうできるかが問題ですね。

●まだまだ意見等言える知識はありませんが、まずは耳を傾ける、その子の立場に立って考えることから始めていきたいと思います。そして専門の方からのアドバイスも参考に適切な距離で...

●人はそれぞれ考え方があるので、人の気持ちを察していけたらいいと思います。悩んでいる当事者に相談窓口を知らせ、悩みを抱え込まずに生きていけるよう伝えていければいいと思います。

●よく話を聞いてあげる、話してもらえる環境をつくることが大事ですね。多様性と思っていても実際にはなかなか難しいですね。ありがとうございました。

●ひきこもりの方の支援については、本人の特性の理解はもちろんですが、周囲の家族や大人の方の学びが必要なのではないかと感じます。例えば発達の特性なのか、愛着の不形成なのか等についても複合的かつ客観的に捉えていく必要があります。「我が家の常識は世間の非常識」であることはよくあるので、その家庭の中の価値観だけにとらわれないことも大切だと思います。

●お友達も一緒に... ということがとても大切と感じました。親の支え方はとても大切だと考えておりましたが、沼倉さんのようにご自身で動ける方ばかりではないということを頭におき、動いて環境整備できればなと改めて感じました。

●人それぞれ様々な悩みがあること、「言葉」は武器、凶器になってしまうこと、発言には気を付けなければならないことを実感しました。また、自分らしく、自分の好きを大切に生きているだけでいい。生まれてきてよかったと思えることなど、とても心に響く言葉がたくさんあり、聞いて本当にそうだなと思い感動しました。今後支援していくにあたり必要なことは、環境、社会を生きやすくするようにバイアスをしないように、今回の講演会の話をしてこんな考え方もあるんだよと周りに話すなどのことだと考えました。そして、悩んでいる人には話し合って良い方向に行くように導きだすようにしていければいいと思いました。話し合いが大切だと思います。

②第２回の概要

共　催：東金市教育委員会
期　日：令和５年 11 月 28 日（火）
時　間：14：30～16：30
場　所：東金市役所５階　ホール

テーマ：「不登校と子どもの居場所」
参加者：一般、東金市内小・中学校教員
参加数：一般 10 名、小・中学校教員 38 名、「ちる」関係者 8 名
合計 56 名
講師名：古山 明夫 氏
講師プロフィール：

1949 年千葉県生まれ。京都大理学部卒業。
出版社勤務を経て、私塾・フリースクールを開き、学習支援と不登校の子どもとの交流に関わってきた。
オールタナティブ教育の啓発普及のための情報発信やネットワークづくりに努めている。
「古山教育研究所」代表、「おゆみ野の森でどんじゃらほい」世話人、「多様な学びを推進するためのネットワーク　愛称おるたネット」代表、「千葉市教育機会確保の会」代表

＜講演の様子＞

※講演に先立ち、法人より「ちる」の開設経緯と活動状況の報告を実施。

＜参加者から寄せられた声＞

●「必ず休養をとれば復帰することができる」という内容を保護者の方に伝え、安心感を与えることが大切だと学びました。アドバイスをしないことがコツだと学習しました。

●対応に困っていたので考え方や今後の対応の参考にしたいと思った。長く月日がかかると思うので学校でもその理解をもち対応していきたいと思った。

●訪問相談の立場として今後このアドバイスを基に子どもたちと交流していこうと思います。ありがとうございました。

●「不登校の理由は分からない」が前提で接することで相手をおいつめないということが当たり前のようで、できないことでもあるので大変参考になった。また、不登校の段階と対応表がとても分かりやすく本校の登校を渋っている児童がどの位置にいるかを理解することができたので、明日から他の職員と共有して対応していきたい。そして不登校の児童を支える保護者をサポートできるように組織で取り組んでいきたい。大変貴重なお話を聞くことができてありがたかったです。ありがとうございました。

●不登校についての認識等段階ごとに詳しく説明があったり、話を聞いたりとても参考になり、最大のアドバイスは「アドバイスをしない」こと

●いろいろな面での１人ではなく対応していくことが教師の心の負担も少なくなると思いました。家庭でもゴールが目の前ではなく社会という大きなゴールを見ることがとても大切だと改めて思いました。

●自分のクラスで不登校生が数名いてその子たちへの対応の仕方がイメージできた。

●これまでに不登校児童の担任をすることがあったが非行タイプよりも不登校タイプの児童が多かったような気がします。学校の集団生活になじめない場合などこれまでを振り返りながら不登校について考え直す機会になりました。ありがとうございました。

●「不登校児にはアドバイスしないこと」この言葉が心に残りました。なぜ学校にいけないのか自分自身でもわかっていない子が多いと思います。不登校児にあえた時には話を聞くスタンスで行きたいと思います。

●今まで不登校児には可能な限り寄り添って関わることが必要だと思っていたが関わり方はケースバイケースであり、基本的にアドバイスは逆効

果だということがよく分かった。

●不登校やひきこもりに対する知識や対応方法について管理職から中堅、初任者まで共通理解をして臨む必要があると感じた。

●追い込まない、追い込み過ぎない、時間をかけて待ってあげる、不登校はあまえわがままではない。

●現在担任3年目でクラスに数名長欠生徒がいるため、対応に困っていた。しかし、この講演会でヒントを得られたように感じる。ありがとうございました。

●低学年の児童の不登校について触れた話があり参考になった。不登校の児童への対応のコツは「アドバイスしないこと」ということを忘れないように今後も不登校児童対応にあたりたい。

●本校でも大きな課題である「不登校」について多様的な考えを持ち、考えていく必要があると感じた。解消するために「熱血先生」になりがちだが、それは逆効果ということなので、本当に対応していく難しさを改めて感じた。学校全体でもっと意識を変えていかなくてはいけないものだと思った。

●不登校の段階に応じて対応することが重要だとわかった。

●学校の先生の対応がとても大切だと思っています。不登校になりかけているころに古山先生のお話を保護者から伝えても学校側が理解できていないと状況は悪化していきます。“熱血先生”は今何とかしないと将来が…と言い、お話のとおりになっていきました。このような機会を切望しておりました。今後どのようにしたらいいのか、古山先生のお話が心から理解できるように個人だけでなく全体の認識としてまず持ち、見極めること、あきらめなどの負の感情ではなく前向きな解釈と対応がしていけるようにと思います。専門的な知識をもち個別最適な方向への道だと思います。今回、記録の仕方など先生の悩みをオープンにしていけたこと、「アドバイスしないこと」この言葉を伝えていただけたこと、先生の救いにもなりますように。

●不登校に特有の自律神経の不調⇒回復には長期単位で考えた方がよいというのはよくわかった。では自律神経の不調の原因は何か。

●大変参考になり、もう少し聞きたかったです。

●私は親ですが、子供とのかかわりについて考えさせられました。ありがとうございました。

●今担当している学級に在籍する不登校児童のことを思い浮かべながら話を聞かせて頂きまし子どもに寄り添い、安全を感じてもらえるよう、見守っていきたいと思います。本日はありがとうございました。

●私も今、担任として困ることがたくさんあります。本人のステージをよく考え、寄り添えていけたらと思いました。

●「今」を見るのではなく、先のことを考えていけたらと感じます。

●質問をすることができ悩みがすっきりした。

●学級に長欠の子がいるので大変参考になりました。どうしても様子が気になり、学校に来てくれれば嬉しくなり欲が出てしまうことがあり、日々、距離感に悩んでいます。

●今日のお話しを聞いて、自律神経の不調だということを認識して接していきたいと思います。

●古山先生の講義をお聞きしたいと思っていました。今日は、こんな機会に出会えて、とても良い経験をさせていただきました。どうしても何とかしようと思い、色々と引き出そうとして追い詰めてしまうこと、反省すべき事だったのですね。不登校に限らず子供と関わる時にも、待つこと、すぐに解決しようせず、話すまで待つ、そして、受け入れてから切り返す事も大事かなと感じました。

●障がい者の支援の中で、ご家族の引きこもり、子供の頃から引きこもりで 40 年、精神障害者などがあり、支援者としても関わりに苦悩していました。とても良いヒントをいただけ、ありがとうございました。

●理由がわからないというのがびっくりした、今後も気にしながらみていきたい。

●不登校について色々とお話が聞けて今後の参考になりました。

●実際、不登校の生徒の対応をしていると、迷うことも多かったですが、今日の講演を聞いて、不登校の段階があることを学び、今後の生徒対応に、すぐに役に立つと思いました。粘り強く母親や家庭をサポートしながら安心できる環境を作っていきたいと思います。

●「不登校の段階を対応」の表は大変参考になった。不登校の期間が長くなれば、辛くなるのは家族だと思う。そちらの気持ちにも寄り添っていくことが大切だなと強く思った。

●教師も同じで担任が一人で抱え込まず、色々な担当が、色々なところか

ら関わっていくことが必要だと感じた。

●つい声を掛けすぎてしまうことが多いのは自分でも常に反省しているところです。今の子供の様子、状態を見極めつつ、対応していきたい。また、保護者対応にも、一人で向き合うのではなく、色々な立場の方にも相談しながら取り組んでいきたい。

●私は教員生活の中で長欠や不登校の児童をもったことがありました。どう対応すべきなのか当時は分からなかったです。ただ、今日の話を聞き、長い目でみれば、学校は通過点だから無理に登校刺激をする必要はないケースもあると分かり少し安心しました。

●今現在、自分の担当している学級に、まさに不登校になってしまいそうな子がいます。保護者も疲れてきているのも伝わっています。関わりすぎにも注意しつつ、見捨てられていると思われないようにもしつつ、対処法も考えていきたいと思いました。質問のところであった「朝の電話連絡が辛い」という話は保護者からもありますので、長い目で見て担任が母子を追い込んでしまわないようにしていきたいと改めて感じたからです。

●不登校の段階と対応を表にしていただけたので、さっそく学校で回覧して周知したいと思います。

●不登校の児童を何とか来させようと必要以上に声をかけていたと感じました。家庭と連携をとったり、多くの先生方と協力しながら行内体制を整えていくことが、大切なのだと感じました。不登校の児童にアドバイスをしてはいけない。少しでも寄り添っていければと思います。

●参加された先生方の意見からも日ごろから抱えている学校現場の悩みや課題を感じることができました。

●“不登校の段階と対応”は、とても参考になった。今まで行ってきた対応を振り返ると段階として間違っていたことも多々あったような気がする。今後に生かしていきたい。

●“不登校”そのものを問題として捉えるのではなく、本人の将来的な自立を目指し、適切な対応ができるように勉強していきたいと思います。

●子供の関わり方に対して、とても難しさを感じる。学校の中だと限界があるようにも思う。親も子も担任も苦しい。これからの関わり方を考える良いきっかけになりました。

●複数で対応できるようにしていければと思います。

●自分の思いだけで不登校生徒へ対応すべきではないと感じました。古山先生が冒頭で“不登校の理由はわからない”とお話していただいたことで、少し楽になったように思います。自分に原因、クラスの雰囲気に問題があるのではないか、と思っていました。古山先生からも、ご自身の経験から講義いただきまして大変勉強になりました。

●不登校生徒の特徴がとても分かりやすかったです。

●不登校の段階に応じて待つことの大切さを改めて感じました。

●何かをしようと思っていましたが、「アドバイスをしないこと」が一番大切ということが、とても印象的でした。

●不登校はわがままではない。理由は聞かず、ただ繋がっていることが大切だと分かった。アドバイスをしないことが安心材料だということも理解できたが、なかなか難しいなと思った。学校全体で見守ることが大切だと思った。

●コロナもあったが、最近の児童のメンタルの弱さ、コミュニケーション能力の低さをすごく感じる。その中で、学校で学ぶというスタイルが合わない子への対応を慎重に考えなくてはいけないと思った。今後の長欠児童（保護者）との関わり方をすごく考えさせられた。

●不登校の段階の様子を具体的にお話していただき、それに対してどのような声掛けや対応をすればよいのかも分かり大変勉強になりました。不登校の傾向にある児童に対しての言葉掛けや、その保護者に対しての対応も、これから気を付けながら進めていきたいと思いました。

●不登校の段階と対応がよく分かりました。特に引きこもり期が本人の心を守るため、自分を取り戻すための必要な休養の時間だということ。そして、抜け出せた子が退屈する時期に入るが、「元気ならおいで」はダメだということ。まだ、また学校へ行ける段階にはなっておらず、自主的に生きる練習をする。自分らしさを取り戻す時期の大切さが分かりました。焦らず、じっくり、本人の心を一番に考えた対応をしていきたいと思いました。とても勉強になりました。

●具体的事例をあげ、お話をしていただいたので、とても理解しやすかったです。身近は児童や自分の家族のことと重ねて、お話を聞くことができました。また、私が常に感じ、指導していることが、間違っていなかったのだと・・・安心しました。これからも色々と状況を見極め、対応、寄り添っていきたいです。

③第３回の概要

期　日：令和６年２月 24 日（土）
時　間：13：30～15：30
会　場：東金市立東金中　多目的ホール「清心館」
テーマ：ドリームビッグコンサート
参加者：子ども：「ちる」、「ゆーすぽーと」利用者、適応指導教室「ハートフルさんむ」利用者、郡内全域の小・中学校の別室登校者、郡内全域のフリースクール利用者等
　　大　人：上記利用者の家族、上記利用機関関係者、「ちる」、「ゆーすぽーと」のボランティア等
参加数：子ども 19 名、大人 13 名、「ちる」運営者９名　　合計 71 名
講　師：ピアノ　　中丸　円香 氏
　　アルトサックス　佐藤　洋佑 氏
　　テナーサックス　福田　ゆず子 氏
　　ボーカル　　近藤　幸江 氏
　　ボーカル　　ラジャビ　初音 氏

講師プロフィール：

◆中丸円香
ジャズピアニスト　作曲家　編曲家　講師　Nene School 代表
Jazz＆Bar Clipper(千葉みなと)ブッキングマネージャー
幼少の頃からピアノ、エレクトーンを始め、大学から本格的にジャズピアノを学び、大学卒業後、演奏活動を開始

◆佐藤洋佑
ジャズサックス奏者として渡米し 2011 年度～2016 年度にグラミー賞を２度受賞、ノミネート４度。これまで数百に上る世界各国のジャズフェスティバル等に参加、世界的に高い評価を得た。2015 年末に帰国し、日本、海外での音楽活動を続ける。

＜コンサートの様子＞

＜参加者の声＞

―子どもたち―

●すばらしかった。思ったより音が大きかった。

●ねねちゃんが歌った歌「月につれていって」は、すごっくきれいなダンスを素敵なおうじさまとおどっているみたいなかんじがして私は、心にずっきときました。お母さまもすごく、ピアノがほんとにすごかったです。

●とても素晴らしい演奏でした。美しい歌声、美しい音楽、どれをとっても最高です。今日はありがとうございました。

●ピアノとボーカルがかみあってとてもいいです。いろんな音とボーカルがいろんなときにはいってきてよかったです。いろんな知っている曲がいっぱい出てきて楽しかったです。

●みなさんとてもお上手でした。がっきもピアノも上手でかんどうしました！私はピアノがひけないのですが自分の好きな曲をひいてみたいです！みなさんおつかれさまでした！

●強弱はっきりしていて良いと思いました。ねねちゃんも歌声がうまくてきれいでききとりやすく良かった。合奏もすごく楽しかったです。東金中学校にきてくれて嬉しいです。知ってる曲もあって楽しかったです。行ってよかったと思いました。指づかいが細かくて、うまかったです。ピアノも指がつりそうなくらい速かったし、うまかったです。息遣いがうまかったです。疲れも見えなくて楽しそうに演奏していました。

●ピアノの音と歌声が合っていてとても良かったです。特に私はピアノがすきなので、とても感動しました。すてきな音色と歌声をありがとうございました。サックスもとても良かったです。

●えんそう、とってもすてきでした！まず初音さんの低温でハスキーな声がさとうさんのサックスとマッチしてすてきでした。次に中丸さんのピアノがとってもきれい。ざっくりまとめると美しい声、サックスのむだのない音色、ピアノのばんそうがマッチしすっぎて少し泣きかけました。アンコールで歌ったさとうさんの歌が心にグサッとささりました～！！こんどうさんの歌で「いのちの歌」が一番すてきで、ピアノととっても合っていて、かろやかなリズムで歌っていて楽しそうでした！気もちがいっぱいかんじとれてすごくよかったです。最後にえんそうもすっごくすっごくすてきでした！！

●歌もえんそうもすごくきれいで聞いてると心がすっきりして、ずっと聞いていたくなりました。東金市にきてくださりありがとうございます。

―大人の参加者―

●子どもたちもよく聞いていましたし、私も『ルパン』ではノリノリになってしまいました。楽しい会でした。演奏者の本物の演奏を間近で聞く貴重な会でもありました。今後も子どもたちの体験を深める機会を作ってください。陰ながら応援したいです。

●「ちる」に通っている女の子の歌声素敵でした。又お母さんが東金中出身者ということで身近に感じ音楽の選曲もとても良かったです。又音楽コンサート楽しみしております。

●内容は大変に良かった。又やって欲しい。年間に 1 回でもいいから定期的に実施していくことが大切だと思います。

●誘っていただいてよかったです。このような活動をしている方がいらっしゃることやこのような会があることも初めて知りました。すてきなコンサートでした。

●素晴らしかったです。感動しました。4 年生の女の子の歌声にも驚きました。いのちの歌は泣いてしまいました。ルパン三世のテーマもかっこよく小さい時から心の瞳、昔、合唱で歌ったことを思い出しました。素晴らしかったです。ありがとうございました。

(2) 広報活動

各種団体などの研修会で、本法人の活動紹介についての講演を依頼されて、「ちる」開設の案内と活動内容について周知する機会を得た。

	対象者	依頼者	会場	担当者
令 5.8.23	東金市主任児童員研修会	東金市社会福祉協議会	ゆーすぽーと	藤田
令 5.10.19	東金子ども・子育て地域懇談会	ちばの WA 地域づくり基金	おひさまの家	藤田
令 6.2.22	東金市民生委研修部会研修会	東金市社会福祉協議会	ちる	藤田

※東金子ども・子育て地域懇談会は当日都合が付かずレポートで参加

5　報告会・報告書

(1)報告会

活動報告は２回に分けて実施した。
１回目の報告会は一般を対象に、講演活動の３回目「ドリームビッグコンサート」終了後に開催した。２回目の報告会は、関係機関・関係者に絞って座談会形式で行うことにした。そこには、第２回講演会で講演をいただいた古山明夫氏を「ちる」の運営に対する指導・助言を依頼して参加していただいた。
また、年度末の多忙の中であったにもかかわらず、東金市教育長石川貢彦様にも出席いただいた。

①１回目報告会
期　日：令和６年２月 24 日（土）
時　間：15：30～16：00
会　場：東金市立東金中　多目的ホール「清心館」

参加者：「ちる」、「ゆーすぽーと」利用者、適応指導教室「ハートフルさんむ」利用者、郡内全域の小・中学校の別室登校者、郡内全域のフリースクール利用者等の家族と上記施設のボランティアと一部一般の方々
参加数：43 名
報告内容：「ちる」開設の背景と経緯
WAM 事業の説明
「ちる」の活動内容
「ちる」のこれまでの実績
「ちる」の今後　等
報告者：主任コーディネーター藤田実

＜報告会の様子＞

この日はとても温暖だったので、コンサート終了後子どもたちはボランティアの大学生やスタッフと屋外で遊んでもらい、大人だけその場に残って頂いて「くつろぎの場ちる」の活動報告会を行った。

＜参加者の声＞

●心の負担が軽くなる場所を大切に思います。

●すばらしい活動だと思いました。今日はありがとうございました。

●これからの活動たのしみにしています。

●子どもさんと「ちる」さんが一体になっていると感じました。（毎日のつみかさねが実を結んでいく様子がうかがえました）これからも世のために（親・子）よろしくお願いいたします。

●不登校などの子供達が集える場所があるということ、それに関わっていらっしゃる先生方ボランティアの皆様ほんとうに素晴らしいと思います。未来をになう子どもたちのために心より応援しております。

●素晴らしいと思います

●だんだん不登校・ひきこもりがふえているのですね。もっとゆっくり生きられるとよいですね。

●不登校・不安のある子ども達にとって、このような場所があることがどんなに心が助かることか・・・と思います。学校ではやらなければならないこと、“こうあるべき”像があり、つらい気持ちの子どもがどうしてもいます。そのような子どもの居場所があるだけで救いだと思います。今後も活動を応援しております。

●小学校で養護教諭をしています。学校に来られない子、困難を抱える子にとって、このような　場所があるとより所となってとても良いなと思います。

●東金地区ではありませんが中学生の相談業務を行っています。ちる・ゆーすぽーとさんの活動応援しています！！

●現状を理解できて大変良かった。様々なアクションが必要だと思います。

●担任をしていた時、不登校の児童への対応に悩みました。様々なところに様々な支援をしてくださっている方がいらっしゃるのですね。身近なところに。知ることができてよかったです。ありがとうございました。

●行き場のない子どもたちと困っている親たちの受け入れ先になるよう祈っています。

●中学生の時に学校に一時期通えなくなり保健室登校をしたことがあります。保健室の先生に　は本当に救われました。優しくて話を聞いてくれて、でも通えない理由をムリに聞かない、そんな先生の対応が私には良かったです。“ちる”さんも子供達にとって保健室のような安心感のある誰でも通える場所にな

って欲しいと思ました。

●心理カウンセラー・仏教カウンセラーとして活動しています。お役に立ててればお力になります。ボク自身も小学校から不登校でした。

●7年前にもこういうところがあるとよかったと思います。どこに相談していいかもわからなかった 経験がありました。

●いつも子ども達も見守り、支援してくださりありがとうございます。

●東金市外の人も参加出来たらいいと思いました。

②２回目報告会

期　日：令和６年５月 11 日（月）
時　間：15：30～17：00
会　場：くつろぎの場ちる
参加者：講師と関係機関

No.	氏　名	所属・役職	補足
1	古山　明夫	古山教育研究所	講師
2	石川　貢彦	東金市教育長	
3	古川　寛之	東金市教育委員会 学校教育課	
4	新田　　篤	東小学校校長	校長会
5	福田ゆず子	大網白里市 子育て支援課	
6	谷野　宏輝	県配置 SSW	東金高校
7	柿崎恵美子	県配置派遣 相談担当教員	東小学校
8	古山真理子	市派遣 親と子の心の相談員	豊成・東小学校
9	太齋　　寛	法人　代表理事	
10	齋藤　　操	法人　総合施設長	
11	川島　悠季	コーディネーター	
12	吉田　敦子	コーディネーター	社会福祉士 精神保健福祉士

13	猿田　　恵	コーディネーター	精神保健福祉士
14	藤田　　実	主任コーディネーター	元教職員

報告・進行者：くつろぎの場ちる主任コーディネーター藤田実
進行方法：最初に第１回報告会同様に「ちる」開設の背景と経緯、WAM事業の説明、「ちる」の活動内容、「ちる」のこれまでの実績等を報告した後に座談会を行った。下記内容の柱立てで行った。
◆それぞれの機関や立場から望んでいる「ちる」の役割
◆「ちる」の課題
◆「ちる」の方向性

＜座談会記録＞

座談会は、藤田が進行し、本事業で関わりのあった機関・団体、専門職の方々から、それぞれの立場での感想や意見等を頂き、それをうけて、講師の古山先生にアドバイスや質問をしていくような形式で行った。
ただ、以下の記録においては、お話ししたことを要約、整理、※印又は()カッコ等で補足する等して、まとめた。そのため、若干不自然なつながりの部分もあるのでご理解いただきたい。
また、具体的な事例の部分については、本報告書が不特定多数の方々の目にふれることから、多少伏せた記載となっている点もご容赦いただきたい。

藤田（進行）
「ちる」にどんなことを期待してつないだのか？

福田（大網白里市）
新規２名（姉妹）をつないだ。姉妹は、母親と不就労の父親、もう一人弟がいて５人家族。保護世帯ではないが、家計はかなり厳しい。学校までの距離があり歩いて学校へ行けない。学校の支援を受けながら登校していた時期もあったが、３人とも不登校。母は働きに出てしまうため、手をかけることが出来ない。学校は定期的に訪問し安否確認だけしている。
姉の方は、中学校で進路指導も行い、卒業もしたが、その頃には不登校だった為、志望校も決まらないまま支援が終わっていた。弟と妹は、安否確認のために自宅へ行くと、たまに出てきてくれる状態であった。母親と連絡を取って聞いた情報や学校経由で、姉妹の今後の意向を聞くと、進学の意向を持っていることが分かった。
そこから進学のお手伝いをすることになった。１～２年ぐらい外出をしていないので、まずは、他の人がいないところで面談してみよう

ということで、近所の公民館で面談を行った。通信制の高校への進学、どんな勉強がしたいか等の意思を確認し、一緒に探すことになった。

そんな時に「ちる」の情報を得て、「ちる」を利用する事になった。

導入時に良かった点は、当人には、初対面の人が気になる程度の体臭（におい）があるため（※当人がどの程度理解・気にしているかわからない）、他に人がいない環境で、数人の先生と会い、挨拶をして少し話が出来る環境があったこと。また、完全な個室状態でゆっくりと話ができることも良かった。

「ちる」に通うようになり、自宅ではなく、離れた場所まで自分が行けるステップが出来たことは、意味があったと思う。コミュニケーション能力は、とてもある子どもだと見たてていたが、他の人との会話の機会や当人の会話の中に他の人が誰も入ってこないので、本来の力を発揮することができていなかったのだと感じている。会話の練習のためにと、作文を書かせてみたところ、想定していたよりもスムーズに書くことができ、会話のやり取りがよく出来ていたと思う。

一番の課題は、「ちる」まで送迎する人がいない事である。バスで通うことも可能であるが、便数が少なく乗り換えがある。また、送迎してくれる機関・団体がない。現在、私が送迎している。送迎中、個別の対応・会話が出来て、関係性が深まった。

結果、昨年６月から外出を始め、今年３月、高校へ出願し、合格することができた。合格後の手続きも完了したが、社会的な経験が足りないため、もう少し関わりを続けたいと考えている。

妹の方は、家庭の状態に引っ張られるカタチで、だんだんと不登校になった。「お兄ちゃんお姉ちゃんが学校に行ってないのに、なんで私が行かなきゃいけないの」と考えるようになっていった。また、バスを乗り継がなければ通学できない環境も、不登校を助長する要因になったと考えられる。

しかし、「ちる」に来て、少しずつ心をひらき、２～３人で話している中で「人と関わりをもってみたい、学校に行って勉強しなくちゃ」という思いがあることを、話し始めた。

今から、中学校のカリキュラムとサイクルについては行けるかどうかは未知数であるが、当人の意向をゆっくり確認して支援をしている状況である。

「ちる」は、当人と適度な距離間にあり、当人の事を大事にしてくれる大人がいるというのが、スタートとしてできたことに関してありがたいと思っている。

姉妹への直接的な支援だけでなく、家庭に対しても、経済的なこと等の支援を行っている。母親には、ゆるく・きつくならない程度にコンタクトをとり、諦めず支援を続けている。

藤田（進行）

妹さんに変化が見えてきているのでこれからが楽しみ。中学校も行けるのではないかと私たちは考えている。

柿崎（県配置派遣相談担当教員）

Ｏさんと Ｔさんの２名の中学生をつないでいる。

Ｏさんに関しては、長年下の子の面倒を看ているヤングケアラーで、なかなか家から出れる環境がない。保護者に対し促してもなかなか首を縦に振らない。保護者の理解を得るのがスタートという状況にある。ただ、中学生になり、自分の意見を言えるようになってきている。「ゆーすぽーと」や「ちる」の活動の話をしたところ興味を持った。連れてきて一回体験したら「毎日やっていないのか」というくらい気に入った。スピーディーな対応と入ってきてからの受入れ体制で、Ｏさんが望んでいた「家から少し出て、自分だけの時間の確保」ができた。

下の子の面倒を見なくていい自由な時間、自分自身の事を考えられる時間、自分の思いや話をしっかりと受け止めてくれる大人がいる安心できる場があること、自分の苦しい過去を話すことが出来たことも、Ｏさんにとっては、とてもよかった。

また、Ｏさんが、特に気に入ったところはおいしいご飯があるところである。人のぬくもりとともに、心も栄養で満たされた。この場は彼にとってぬくもり・安心・安全を感じて、彼自身が自分と対話できる時間が確保できた点では、彼も私も利用出来てありがたいと思っている。

Ｔさんは、中学三年生。この場に来れば自分の将来に向けた勉強や本人の抱えている課題についてすぐにサポートしてくれる学びの場に直結できる、将来に繋がるという事が子供たちにもたらされている。つなぐ意味では後押しできたと思う。

このような施設があってよかったなと思うのは、送迎の手段がない子。非常に能力は高く受験したいと思っている子だが、どこにも繋がっていない。「ちる」から遠い地区に住んでいる子がいる。親は気持ちが不安定で送迎は難しい。本人は中学校に行こうと思っていても親が行かせないって言っているくらいなので行き場がない。非常に先行きが心配。

やはり少し遠い地区に住む子で、家から離さないといけないと思うほど親から支配されている子がいる。いまその子が外に向けて発信し始めている。地区の教育施設にも興味を持ってくれて外に出そうとしている。ただ、その子に対しても、送迎の力がないと可能にならない。これから、この子たちの行き場を作る為には、こういった安心の場があるといいなと思う。

藤田（進行）

非常にエネルギッシュに動いてくださって勤務時間を超えて情報交換をしてくださってありがたい。

Ｉさんをつないでくれたのが古山さん。彼女の所属する中学校の勤務ではないが、小学校時代に関わり、以来ずっと気にかけて、休みの日を利用して接触していた。そして、色々調整してつないでくれた。利用初期には、環境になれないという事で「ちる」に通い詰

めて、マンツーマンで対応頂いた。

古山（市派遣親と子の心の相談員）

Ｉさんは、小学校１年生の時から知っている子ども。最初の頃は、学校に通っていた。家庭が複雑で数回児童相談所に入っている。母親が外国籍なので、情報が全くない。言葉もわからない。3 兄弟の一番下の子で、一番上の子がいるときは学校からの手紙などをお母さんにつないでいた。児童相談所に入ってから学校に通えなくなってしまったが、担任の先生は、訪問などよく対応をしてくれていた。6 年生で卒業になり何度かこの場を紹介しようと思ったが行くと言わずに終わってしまった。学校に来ていた最後の頃は適当な時間に来て、保健室で過ごし、適当な時間に帰るので、帰るときに送っていたので家は知っていた。卒業してしまったのでつながりが切れてしまった。柿崎先生が繋がってくださって色々と情報を貰うことが出来たが、中学校には行けていない。アパートを知っていたので、学校の帰りにたまに行ったりしていた。家からも全然出ず、外出もしていないので心配していた。

中学校までは学校で把握しているが、卒業するとその後はどこも把握しないまま支援が届かなくなってしまうのではないか。そのため、中学校の内にどこかにつなぎたかった。親がしっかりしていればどうにかすると思っているが、親が日本での情報もわからないと親も動かないと解っているので、このまま引きこもりになってしまうのではないかという事で中学校の内にどこかにつなぎたかった。2 年生の夏ごろに市内に児童・生徒を対象にした施設が開設すると聞いて、こういうところでもいいから行ってくれたら繋がると思って本人に話をしてみたら、猫がキーポイントで猫がいる施設に興味を示したので親に了解をもらったうえで連れて行ったのが最初。その施設には 2 回行ったが、地域密着型で地域の子たちが集まっている感じでなかなか溶け込めなかった。

そこで、「ちる」にはどうしてもつなぎたかった。ここに繋がれば、学校の情報や、高校の情報などもわかるので進学の道を開いてもらえるのではないかと思った。

最終的には、私はあなたの何を心配しているのか、お母さんはあなたに対してお金を稼いでほしいとかそういう気持ちがあるんだけれども、お母さんは悪い人ではないけど、あなたに高校などそういう情報は全く出せないから、こういう場で高校の情報等もあるから行ってほしいという事で本人に話をした。

本人は行ってもいいけど、初めてだし一人では嫌だという事で一緒に来た。夏休み期間中は一緒に来ていた。仕事があるので一緒には来られないよと事情を話して、願っていたように繋げることが出来た。

藤田（進行）

Ｉさんが繋がったのは奇跡のようだった。学校の立場を代表して、新田先生に、このような施設に対して考えていることを教えて頂きたい。

新田（校長会）

私は、「ちる」に在籍している子の多くに関りがある。Ｈちゃんは小学校１・２年のころから関わりがあった。人懐っこい子だった。

Ｍちゃんは現在小学校に来ているが、相談室登校でなかなか教室につないであげることが出来ないでいる。相談室に対応する職員を付けない状況で、古山さんに対応して頂くことが多いが、相談員なので相談業務をやらないといけない。相談も結構多いのでそこは空けないといけないので、シフトを組んでうまくやろうとはしているが、なかなか機能しない。来年は体制を考えないといけない。

Ｙくんは途中で転出してしまった。家が本当に遠くて、遠いから学校に来られないとはこういう事なのかと思う位。妹は元気に来ている。兄のＹくんだけ来ないので、しょっちゅう迎えに行っていた。転出して、どうなったか転出校に聞いたところ家が近くなったので登校していますという話で、本当に遠いから来なかったんだな、よかったなというイメージがある。

Ｉさんは入学前、年長さん位からお母さんに連れられて自転車に乗せられてよく学校に来ていた。お兄ちゃんとお姉ちゃんはいるが、お姉ちゃんは里親のところに引き取られて、お兄ちゃんは施設に引き取られた。お母さんはＩさんだけはかわいがっていたので、手元から離さなかったが、お母さんの養育能力が低く苦労したと思う。中学校の卒業式で名前を呼ばれたときに会場の下にはいなかったが、後ろにいたとの事で、無事に卒業出来てよかったなと思っている。

Ｒさんは話していて文化の違いだなと思う位ずれを感じる。大人とは非常に会話が出来る。今は調子が悪く学校に来られていない。丁寧な対応が必要な子。私の見通しだと教室には当分戻れないなと思う。Ｍちゃん以上に戻れないと思っている。相談室を住処としているようなイメージがある。

小学校３年４年で関わっていた子で、４年生の時に不登校で５年生になったら教室行くんだよという状態で異動になってしまった。５年生から復活して全然休まず中学校でも頑張っているという事で約束を果たしてもらってよかったなという気がしている。

こういったお子さんたちと関わっていく中で、何が大事かなと思ったのは、人それぞれでもあり、完全に解消するという事もないかもしれないが、大人になるにしたがって信頼できる人や大人、大体こうなる段階で何となく大人に切り捨てられていた部分、つながりがなかった部分を持っている子が多いイメージがあったので、せめて関わる教師が常識をもって子供に信頼されるようにしていく、そこで繋がっていく。教師だけでは何にも出来ないので、そこに関わる色々な大人と教師が繋がっていくことで、大人たちは信頼できる

んだという関係を作っていくことが大事で周囲が共通認識をもってこの子たちを見てあげようという思いが徐々に伝わっていくんではないか、それが将来的にエネルギーになってくると考える。

学校としてはいろいろな居場所、学校には来られたんだけど教室に行けない子の居場所を作っていくなど敷居を低くしていく必要があるかなと考えている。「ちる」には、そこのつなぎでご協力いただきたい。学校も子どもたちが通いやすい状況を作っていきたいと考えている。

藤田（進行）

学校は、校長先生によって、雰囲気がだいぶ変わってくると思っている。校長会も新田さんのような考えが浸透するとありがたいなと思っている。

続いて、教育委員会で「ちる」の運営に欠かせない動きをしてくださっている古川さんからも意見をいただきたい。

古川（教育委員会）

教育委員会にお世話になって、長欠と不登校のお子さんに関わる事を担当した。本市の状況を見たときに、長欠・全欠になればなるほど、学校の中でもやり取りがなくなってしまって、家庭に入ってもやり取りする事が出来ない。保護者の方にも会う事が出来ない。お子さん自体が埋もれてしまうように感じた。

どうしたらいいだろうと考えた中で、まずは公に関われる方にとにかく繋げなければだめだ。学校は打つ手がない。教育委員会の札を下げて行くと「何でしょうか？」と抵抗感が強い、より専門性の高い人にまずはつなぐ。

教員や教育委員会職員が出来ないところをどうしたらよいかと考え、繋ぐことを意識するようになった。できればお子さんが家から出ることが望ましい。家庭の中で悶々と過ごすことはよくないし、家族以外の方とどうにか関わることが出来ればという事を常に念頭に置いている。

保護者から不登校についての連絡を頂くこともある。お子さん含めてお会いして話をする中で、「ちる」を紹介できるという事はとてもありがたいと思った。市内では山武郡市の広域で運営している「ハートフルさんぶ」の東金教室という施設がある中で、「ちる」については開所している日数も多いし、送迎も含めて、子供や大人のニーズにマッチしているのかなという事で、選択肢が広がり、私たち相談を受けた側からしてもありがたいなと思っている。

そういったかかわりの中で実際にそのお子さんにとって必要な支援はなんだろうか、医療的なことなのか、家庭を見たときに家庭そのものに支援が必要なのではないかという点では、知識も経験もない私だけではどうにもならないので、専門の皆さんに見て頂くと同時に役所の中の人間としては他の課につないでいく、主に福祉に係る課ですが繋ぐことで自分の中では自分がハブになれればいい

なと思いながら「ちる」を含めて関わりを持たせて頂いている。

藤田（進行）
　引き続きご協力をお願いしたい。
吉田さんは二刀流で送る方と受ける方をやってくれています。その立場でお話しを聞かせて欲しい。

吉田（スクールソーシャルワーカー／コーディネーター）
　送る方の立場で言うと、自分が見て自分が行きたいなと思うところではないと紹介出来ない。また、お子さんが望んでいる場合に、私自身も見学して、いくつか見たのを紹介して、繋いでいくことにしている。
　受ける側としては、一番は「安心してもらう」という事。
　通常、複数の子どもが利用する施設や場では、「こうしなければならない」「これをしないでほしい」ということが沢山ある。当然、事故や怪我等を考慮しなければならないことはあるが、極力最小限にしたいと思っている。その場にいる「子どもがやりたいと思うこと以外は無理してやらせない・進めない」という事を大切にしたい。
「みんなが安心する場」というと、一般的に納得や聞こえ方としては良いが、「一人ひとりにとって安心する場であるか？」と考えると違うと思う。
　私は、子どもにとっての安心できる場とは、「自分が嫌なことをさせられない」「自分がやりたいと思ったときにやれる場」が安心できる場かなと思っているので、そこを大事にしたいと考えている。

藤田（進行）
　送る側から見て、「もう少しこうならない？」等の要望ありましたらお願いしたい。

古山（市派遣親と子の心の相談員）
　改善してほしいとは違うかと思いますが...
　子どもたちが学校に行けなくて悩んでいる保護者がすごく多いと思う。学校側は「ちる」や相談機関等の情報をたくさん持っているが、その情報がなかなか保護者に伝わらない。そのため、その情報がどうにか伝わる方法をどうにかならないかが私の中で課題である。
　長欠会議等に参加し、自分の担当の学校でも、そこで不登校の子どもの保護者等を全部知っているわけではない。そうすると東小は本当にオープンにしていただいて、こちらに話を回してもらえるため保護者や子どもと接する時間が多くなる。そうすると、この人は紹介ができるが、直接私のところに相談が来るわけではないので、そういう情報がピンポイントで繋がることがシステム上あったらいいなと思う。

藤田（進行）
　新田さんその意見を受けてどうですか？

新田（校長会）
　うちの学校は古山先生が管理職にいろいろ伝えてくれ、担任から話があるため、子どもの問題ではあるけども私が見る限り、親も相談したいけど、先生に相談するのは違うなとは思う。先生は相談されるとまじめなのでなんとかしなきゃと答えるんだけど、先生たちは得意不得意があって意外とカウンセリング的なただ聞くってことはできなくて、つい「ああしたらいいですよ」「こうしたらいいですよ」って仕事柄言っちゃうんですよね。私もそうなんですけど...
　そうじゃなくて、そういったところが得意なところ繋げてあげる、コーディネーターと協力できる仕事を教師ができるといいなと思う。そこを古山先生やSSW等に手伝ってもらいたい。
　私がたまたま市役所にいた事もあり子育て支援課とつながりが強いので、すぐ子育て支援課に電話して、こういう保護者がいるから相談してくれないか、保護者にそういところがありますけど相談してみませんかという繋ぎをすると、学校には相談できない生活支援の部分の支援ができ、そこが安定することで子どもが安心して学校に通って来られるみたいなことができる。そのため、情報の共有できる部分は、学校だけではなくて「ちる」に来てもどこに繋いでいったらいいのか情報が得られることがみんなでできれば更に良くなると思う。

藤田（進行）
　古川さんは、客観的に私たちの活動を見てくれていたわけですが、ここをこうした方がいいのではという、気が付いたところがあればご意見を頂きたい。

古川（教育委員会）
　引き続きこのような形態でお願いしたいなと考えている。課題については、繋ぎ方というところで、私が気を付けていたことは例えば10人長欠のお子さんがいた時に、10人を同じ人に繋ぐものではないと考えている。学校が、まだ関わりを持てる事があるのであればそれはゆだねるべきだなと思っていて、軽い、重いの表現があっているかわからないが、重いケースの方から繋ぐという点では、そういった方に訪問相談やSSWの方に入ってもらって、「ちる」を利用する事が出来たが、その手前のところも古山さんは「ちる」を押していたと考えると、学校の中で「ちる」をどう繋ぐかという事もひとつかと思うが、担任の先生がチラシを預かって渡すのは難しいと思う。自分が親だとしたら受け取ったときに、「学校は手を引いたのかな」みたいな事になるので、それはさせるべきでも、すべきでもないと考えている。
　最終的に子ども達は、何らかのカタチで学校と関わるべきだと思

うし、関わる事を絶やせないと思う。そういった点で、だれか他の専門職となると担任又は学校の職員が、まず出来るのは、校内の相談員やスクールカウンセラーに繋ぐことだと思う。そこからこういった場（※ちる）もあるという事を話して頂くと、同じ学校の中でもつなぎやすいのかなと思う。

ただ、「家庭から出られないケースはどうするのか？」等は、まだまだ課題だと思う。少なくとも、学校がまだ何か関われるお子さんが、少しでも動いている場合は、そういったカタチで、学校から出られない家庭等が重いケースだとすれば、その程度によって周知の仕方を変えていく事が出来るのかなと思う。

「まずは、ここでお会いして話してみましょう」という場（※ちる）が、市内にできた事は、とても良いことだと思っている。

「ちる」が開設されてから、まだ直接の相談で、子どもを繋ぐまでには至っていない。ただ、相談があった時には、自分達でもできることも検討した上で、相談者の選択の幅を広げる意味でも、「ちる」を紹介・繋ぎたいと考えている。

そういったところを心掛けて教育委員会としては対応していきたいと思う。

藤田（進行）

法人として、またコーディネーターの立場で、これまでの話を受けて感想・意見を頂きたい。

齊藤（法人総合施設長）

学校や教育委員会、各種専門職、相談員等様々な立場からのお話を聞き、本事業や「ちる」という拠点が、この地域の子どもと家庭に強く求められていたのだなということを改めて実感した。

同時に、こうした取り組みは、当法人だけで実施できるものではなく、ＷＡＭの助成事業をきっかけに繋がり、協働できたからこそ限られた期間で一定の成果を生み出せたのだと思う。

しかし、本助成事業は、本年度かぎりの単年度事業であることから、法人として今後どのようにこの事業を維持継続、発展させていくかというところが課題である。

ただ、当法人は、これまでも地域のニーズの寄り添い、様々工夫しながら、支援の拠点や活動を拡げてきた実績あるので、皆さんにこれまで以上にご協力を頂きながらしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

猿田（コーディネーター）

私は、子どもの相談は初心者の状況で、ずっと生活困窮の相談支援をやっていて、どちらかというと大人の相談をずっと受けてきた。最近、子どもと関わる事が増えてきて、子どもは思っていることを言語化することが大人の様にすることができないので、きっかけをつかめるように簡単な質問をするけどもなかなかそれも出てこない

ため、これからどんどん勉強していかないといけないな。やっぱり、親御さんがつくる家庭環境もかなり響いていると思っているため、親御さんへのアプローチも一緒にやっていけたらいいなと思っている。

川島（コーディネーター）

本事業を通じて改めて実感することは、「コーディネーター」という専門職の重要性である。

不登校やひきこもり状態の子どもやその家庭の「助けて」とニーズを汲み取り、学校や教育委員会、スクールソーシャルワーカー、各種相談員とつながり包括的な支援を行う、また、ニーズに対して応えていく支援・活動を展開する等その役割は大きい。

今回、ＷＡＭ助成事業により、臨時的にその役割を当法人において実施したが、今後、この役割をどのように担保していくかが課題であると思う。

また、「ゆーすぽーと」同様に、「ちる」の今後の運営に関して、関係機関・団体の皆さんにご協力を頂きながら一緒に考えていきたいと思っている。

藤田（進行）

スクールソーシャルワーカーの谷野さんにも、一言ご意見を頂きたい。（※谷野さんは、所用で途中からの参加）

谷野（スクールソーシャルワーカー）

千葉県スクールソーシャルワーカーで、今年東金市を担当している。地域の活動の「ゆーすぽーと」や「ちる」、そして地域の子ども達やそこに関わる人達と関われてとてもありがたく思っている。

藤田（進行）

講師の古山さん、色々な立場での話を聞いていただいて、感想を含め、次年度以降の方向性についての意見やアドバイス等頂きたい。

古山（講師）

いろいろな立場の方のお話を伺って、本当に難しい事に正面から取り組んでいらっしゃる方たちだと実感した。

不登校やひきこもりの子どもへの支援は、簡単には届かない。支援する側が、受け身でいると向こうから声は出てこない。だけど、下手に手を出すと反発を受ける。また、逃げていってしまう事よくあることである。

しかし、皆さんは、そこに上手にアプローチをしている。また、アウトリーチと場の両方を持って取り組んでいること。やはり、場がないと、支援をもう一段先に上げていくことができないため、そこにしっかり取り組んでいることにとても驚いている。

子ども達の居場所づくりに関わっている私としては、「鬼ごっこ

やかくれんぼ」が子どもを一番元気にできる方法であると思っている。私は、フリースクールをやっているが、そこに来ている子ども達は塞ぎ込んだ感じである。子ども達のことが心配で、つい色々と聞いてしまうが、そのことが、かえって子ども達を追い詰めてしまう結果となる。そのため、私は、ゲームに誘う等遊びを通じて、関係づくりを行い、心を開いてもらう。こうした取り組みやっているうちに痛感したのは、子ども達は、自分のこと（不登校・ひきこもり状態の自分のこと）を解ってくれる人を求めているという事である。

世界中にたった一人でいい、親、又は親以外の人でもいいから、良い悪いを言わずに、寄り添ってくれる・理解してくれる人が一人でもいることが重要。極端な言い方ではあるが、そういう人がいれば、自らを死まで追い込んだり、本格的な精神病にまで追い込んだりしないで済むのだと思う。

ところが、フリースクールは、それをやっているだけじゃ足りない。本当に元気に何かに取り組めるところまで持って行くために、「大丈夫だよ、あなたの言う事分かるよ」と寄り添っていく。

ただ、ある一定のところまでは来るが、そこから先が難しい。

このような経験から、４年前にある社会福祉法人が相談会をやっていてプレイリーダーの入った子どもの場をやらないかと提案した。一つは理解してくれる人がいるというのは絶対的に必要だけれども、その次のステップとしてみると２つの条件があると子どもたちが元気になる。

一つが、自然の中で過ごす事。自然の中にいると考えが煮詰まらない、またなにかやる事がある。室内にいるとぶつかる事が多くなるし、煮詰まりやすい。自然の中だと適当に距離が取れるというのもある。室内だと人の声が聞こえてくるし、距離取りたくても取れない。しかし隔離されているわけでもなくそれが良い。

もう一つが、人間関係はこういうものだよと伝えてくれる人の存在である。「あなたの言う事わかるよ」というのも大事ではあるが、何気なくちょっかいを出したり戯れたりする。わざとらしくやるといやらしくなるけど、一番自然なのは少しちょっかいを出しておいかけまわしたり、ボールで遊んだりして対話に持ち込んでいくこと。私自身も少しはできるが、体が動かないので、若い人や遊び上手な大学生に役割をお願いする。現在、働いてくれている人は、ひきこもりの経験があり、保育士の資格も持っている。そのため、関係をつくりにくい子どもの気持ちがよくわかるので、上手に遊んでくれている。

外に出られない子どもが、外に出られるように第一段階の場を引き受けようと思って取り組んでいる。そこでの最終ゴールは、鬼ごっこ、かくれんぼが出来るようになることである。

実は、鬼ごっこやかくれんぼは、ルールに従ってやっている。動物も追いかけっこはやるけど、ルールを決めてやるのは人間だけである。ルールがあるから遊べる。ルールがその場を支配している。

ルールがあるから遊べるという場を作ってあげられる。これが大変いい結果を得ている。

こういう場を作って大変なことは、小学校低学年は、動き回るし、喋るし、足や手が出る子ども達とどうかかわるかである。大人は、みんな助けたい。しかし、そういう子どもがいると、怯えだす子どももいて、場がもたなくなってしまう。一緒の場にいると危ない、ただ、叱りたくもない。

そのような、手が出る、足が出る子どもたちをどのように静めるかというと、遊びで取っ組み合えるようなお兄さんお姉さんが入る事。役割分担して、一人はよじ登らせたり、追いかけまわしたりして、もう一人がどうしたの？おいでとやさしく声をかけてくれるようなこの二つを用意するとほとんどの子供が何かしら引っかかる印象を持っている。

藤田（進行）

古山先生に質問ある方いらっしゃいますか。

谷野（スクールソーシャルワーカー）

子どもか、大人か、障がい者かではなく、住んでいるところで一緒に交われるといいなと思う。重層的とも言われていますが、地域ごとに関わり合いのあるところで場が出来るといいなと思う。地域の中でいろいろな子どもや大人がいる中で、大人が引きこもっているところで子どもが役割果たしたり、引きこもっている人たちが活躍できる場をつくったりして、取り組みを広めていくことについてどう考えているかアドバイス頂きたい。

古山（講師）

良いとは思う。ただ、実際問題として、一定の人達が、不登校の子どもたちに対して、アドバイスしてしまうようなことが起こってしまう。「学校行ってないの？大丈夫よ、頑張りなさい」みたいな言葉をよかれと思って発する。この言葉は、不登校の子どもにとってはとてもキツイ言葉であり、一発アウトである。

もし、多様な人達の中で受け入れていく場合には、事前に打ち合わせを行い、不登校の子どもへの関わりと支援方法を解っている大人が取り囲んであげれば、大変効果的な取り組みなるとも思う。

古山（市派遣親と子の心の相談員）

フリースクールには、引きこもりの方で、年齢的には小学生や中学生が多いのか？その子どもたちは、義務教育の方受けているという事か？義務教育の勉強をさせるという事を目的に考えているのか？それとも違うところを目指しているのか？

古山（講師）

関わりを持っている子ども達に対して、勉強に向かうように持っ

て行きたいと考えているが非常に難しい。年齢が高まると少しずつ勉強に向かってくるが、受験には間に合わないのが現状。不登校になるタイプの子は、文字や記号等になんとなく苦手意識があり、距離感を感じている。頭は良いが、文字に書いたもので、勉強させようとすると、意識がふっと逃げちゃう子が多い。

“もの”にすごい感受性を持っていて、“もの”をいじらせるとすごいことをやる子どももいる。そうした子どもが、教科書勉強的なものに焦点があってくるのが、15～17 歳くらいまで待つと無理がないことが多い。個人差はあるが、高校段階の接続が本当に難しく、不登校を本格的に経験してしまうと、年単位の勉強が困難となる。現実問題として中学で不登校になった子どもが、高校受験に間に合う、ある程度勉強して入れるような子どもは、ほんのわずかであるのが現実である。

一方で、そのような状況に対応できる仕組みが、新たに出来てきている。それが通信制高校である。多くが学力不問。不登校の子供たちも対象にしているので、小学校や中学校レベルの勉強が解らなくても、そこから教えてくれる。いい意味で需要と供給の関係にあると考える。これで救われている子どもは沢山いる。ただ、学費がとても高く、年間 100 万円位かかるため、このことは課題である。面倒みの良いところほど、そのような傾向があると感じている。多くの家庭は進学に向けて蓄えているが、高校段階で貯蓄を使い果たしてしまうため、その後のことを考えるとなかなか選択できない。

このような状況に課題を感じていたが、昨年４月に千葉県において、不登校の児童生徒の支援条例が作られた。その中には、基本施策の中に「福祉と教育を一緒にしたような高校」を作ると書いてある。このことは、現状ニーズに応えている。つまり、お金のかかる通信制高校を公立で作りましょうという事である。福祉と謳っているから、小学校レベルの勉強からサポートしなければいけない子どもでも無償同然の金額で高校に通える。

このことは、不登校の子ども達に対して、何よりも人と交わる場を作ってあげられる。これは凄いことを考えつく人がいるなと思った。具体化するかもしれないが、そういうものがあったら一石何鳥にもなるから良いと思う。可能なら３年期限にしないで自発的留年を認めてあげる高校となってほしい。自発的留年なら、本人の自尊心や所属が出来る。勉強が同年代の他の子どもより遅れていても、準備が出来たところで専門学校に進学するなり、大学に進学するなり、就職するなりと、そこまでサポートするという公立高校があったら素晴らしいと思っている。

石川（教育長）

子ども達にとって関わってくださる大人がいるという事はとても幸せなこと。立ち直るきっかけだと思う。どこかに繋げようという思いが子供たちを救う事になるので今後もどうかよろしくお願いします。行政として考えていることが 3 つある。1 つ目が学校に

は来られるけど、教室に入れない子の対応をする人員を配置する事が課題。2 つ目は「ちる」のように子どもが安心して生活できるような場、安心して過ごせる場（学校とは全く別で）が必要だと思う。行政がもっとこういう場を作らないといけないと思っている。「ちる」のような場所をたくさん作り、「ちる」の活動も応援したいと思っている。3 つ目は子どもたちを繋ぐ人が大切だと思う。

※以上で、座談会は終了。

＜座談会のまとめ＞

第２弾となった「くつろぎの場ちる」の報告会は、講師に古山明夫氏を迎えて座談会形式で行った。議会開会中の多忙な時期にもかかわらず、地元東金市の教育長にも快諾でご臨席いただけた。関係機関や専門職の方々の参加者も期末の忙しいスケジュールの中皆さん都合をつけて参加くださった。

それぞれの機関や立場から望んでいる「ちる」の役割、「ちる」の課題、「ちる」の方向性等のヒントを頂いた。

また、今回の座談会は、３つの点で大きな意義があった。一点目は、役割の違う人たちが情報交換・共有する場が必要だということが強く認識されたこと。二点目は、教育行政のトップである教育長より、不登校や引きこもりの子どもたちの対応に具体的で柔軟な姿勢が示されたことは、参加者を勇気づけてくれたこと。三点目は、講師の古山先生に不登校・ひきこもの子どもたちを理解する具体的なお話と支援の具体的アドバイスがいただけて、「ちる」の方向性を示していただけたこと。である。

＜座談会の様子＞

※座談会に先立ち、「ちる」開設の経緯と活動状況を説明した。

(2) 報告書

報告書を 200 部作成、東金市・東金市教育委員会等行政機関及び東金市内の小中学校、山武郡内の行政機関及び福祉関係団体、スクールソーシャルワーカー、地域の中小企業、商工会その他ご協力いただいた機関、団体等に配布する。

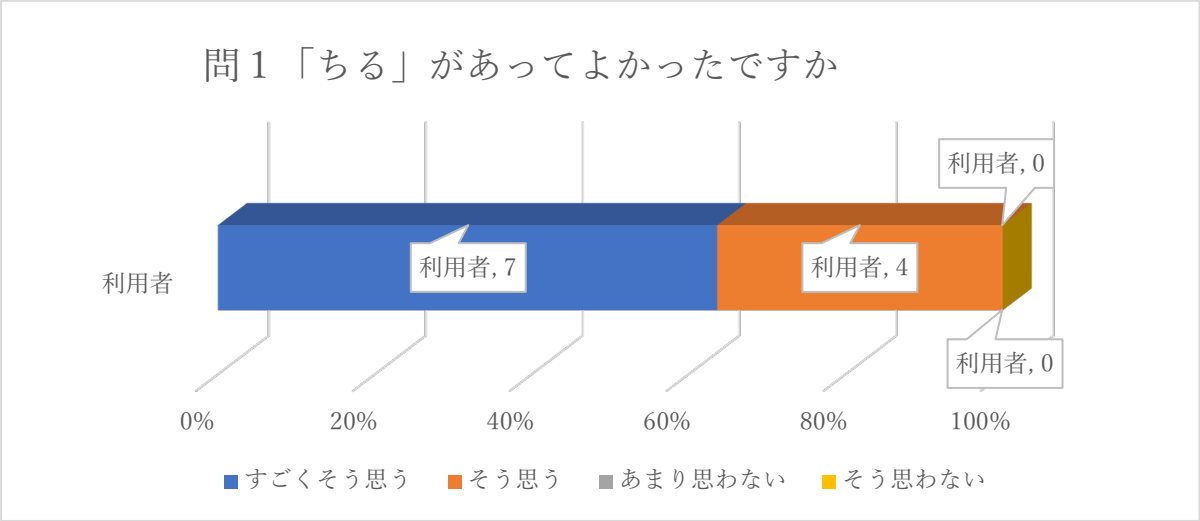
第２章　事業評価

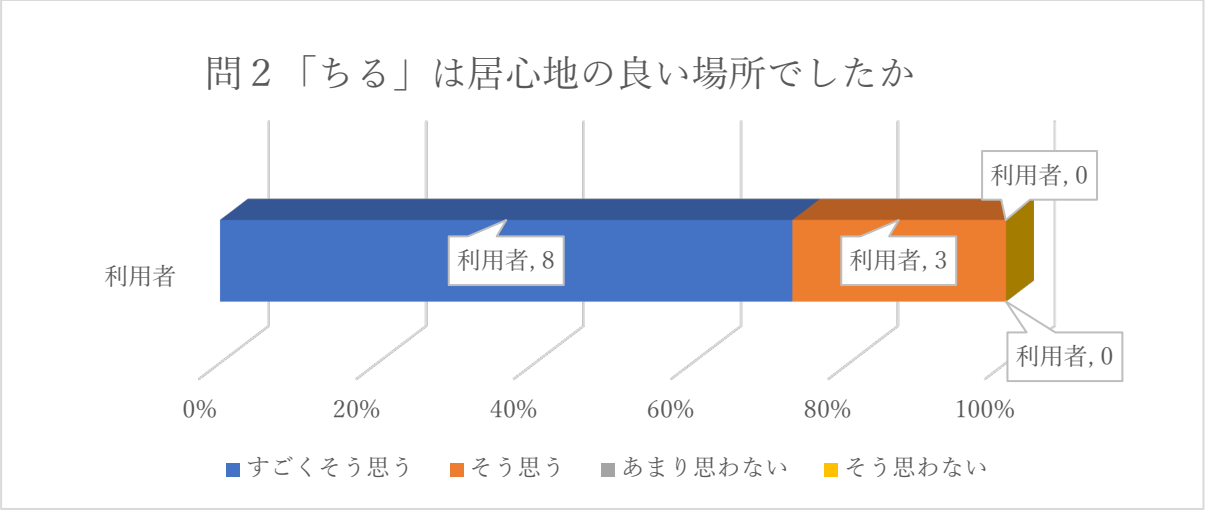
1　子どもの評価

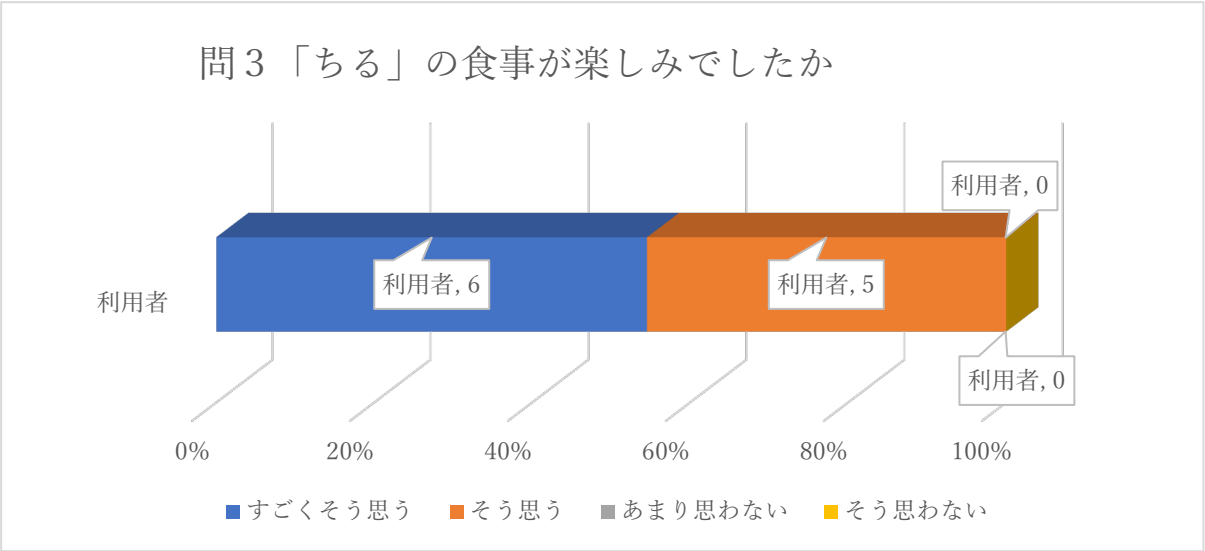
「くつろぎの場ちる」（以下、「ちる」と略す）利用者に対して居場所・食事を中心としてアンケートを実施した。
設問は下記の３問で、４つの選択肢から回答。最後に自由記述で、「ちる」の感想を記載。

問１　あなたは「ちる」があって良かったですか。
問２　あなたにとって「ちる」は居心地の良い場所でしたか。
問３　あなたは「ちる」の食事が楽しみでしたか。

「ちる」利用者 14 名（一人転居）中、11 名から回答を得ることができた。







＜利用者の声＞

●私は「ゆーすぽーと」から「ちる」と約２年間お世話になりました。多くのことをサポートしていただきましたが、特にお世話になったのは勉強と食事です。まず、食事についてお礼を言わせていただきます。毎回美味しいご飯を本当にありがとうございます。健康的でたくさんの食材を使って作られた夜ご飯は、勉強で疲れた体をいつも元気にしてくれました。
「ちる」のご飯は私にとって第２のおふくろの味です。私は「ちる」のご飯で特に好きな料理は「酢豚」です。昔はピーマンが苦手だったのですが、この酢豚のおかげでピーマンが美味しいと思えるようになりました。「ちる」・「ゆーすぽーと」の皆さんには感謝しかないです。また、私は「ちる」で勉強でもお世話になりました。分からない所は丁寧に教えていただけたおかげで勉強が楽しいと思えるようになりました。特に平田先生には頭が上がりません。重ね重ね、今まで本当にお世話になりました。いつもありがとうございます。どうぞこれからもよろしくお願いします。

●私にとって「ちる」は特別な場所です。理由は四つあります。
まず一つ目は、友達が出来たことです。「ちる」に来てから１年生の後輩ができ、同い年の友達が出来ました。そのことは将来の夢が一緒であり調理師専門学校も一緒で仲良くなれたからです。二つ目は、小学生の子たちが優しく接してくれるところです。いつも私が下にいると優しく受け入れてくれました。私が勉強していた時に「休みなよ」って遊びに誘ってくれました。三つめは、先生たちが優しく勉強を教えてくれました。私が分からない所を授業よりも分かりやすく教えてくれたのが印象に残ってます。最後に、「ちる」は私の居場所を作ってくれたからです。私が学校に行けなかったときに、「ちる」で勉強をしていいと居場所をくれました。私はそこから後悔しないように勉強を頑張りました。そのおかげで高校が受かりました。
私は「ちる」のみなさんに支えられて高校生になれたので、高校では良い成績を残そうと思います。今の私がいるのは、「ちる」のおかげなので感謝しています。

●「ちる」で、パソコンやボールであそんだことがたのしかったです。算数のべんきょうをがんばっています。ひっ算ができるようになりました。タイピングが上手になりました。２級になりました。外に散歩に行ったら犬がいました。公園で散歩しました。算数のプリントがたくさんできるようになりました。

※今春、高校に合格して、入学前の課題で書いた作文に「ちる」のことが記述されていたので、本人の承諾を得て掲載した。

●私が入学するにあたって思う事、まず一つめに私が何故この高校を志望したのかについてですが、以前面接時にもお話した通り、理由は二つあります。今回の作文では少々簡約化し、一つにまとめて書き、合格後に思った。「入学後したい事」についても書かせていただこうと思います。まず始めに志望理由について、私は小学４年生の頃からクラスメイトや同学年の人達と上手く馴染めず中学２年生になるまで、あまり学校にいけませんでした。ですが空が青く気温が高くなる季節に私は、自分の居場所となる「ちる」という施設を小学校でお世話になった古山先生という方に紹介してもらい、私はその日から「ちる」に通い、少しずつ勉強や人付き合いに触れていきました。「ちる」ではたくさんの人達がいて、個性溢れる方々と楽しく話し、時に叱られ涙する、そんな毎日はいつまでも私にとっての宝物であり、そんな日々が私を奮い立たせてくれました。私が中学３年生になり志望校に悩む日々を送っている時、「ちる」の先生方は誰よりも私を気にかけ、相談を受けて下さり、一緒に高校について調べ、そんな中であったのがこの、東金高校定時制です。貴校の独自の科目である「ソーシャル・スキル・トレーニング」や、学校生活の写真を調べていく内に私もこの学校で多くの経験を積み、社会に貢献できる大人になりたいと思ったのが貴校を志望した理由です。

次に私がこの高校でやりたい事について、まず一つめに、私は高校に入ったらいろんな人とのコミュニケーションで様々な知識を得たいと考えています。定時制高校には色々な事情で入学した多種多様な人たちがいるので、私はそんな経験豊富な方々と共に学校生活を送ることは私にとってこの上ない程いい体験になると考えています。また、「ちる」で２年間培ってきた人付き合いをさらに広められるチャンスだと思うととても心が躍ります。

次に二つ目に楽しみなことは学校行事についてです。私は先ほどお話した通り小学４年生の頃からあまり学校に通う事が出来なかったので体育祭や修学旅行などの学校行事に参加せずにいました。なのでこれから４年間出来なかった事をやり直す様に色々なことにチャレンジし、様々な分野で私の中に眠る予想もしなかった様な才能を学校行事を通して見つけていきたいです。

そして、最後に三つめにやりたい事です。それは勉強を今まで以上に頑張りたいという事です。以前に私は「ちる」の先生に「継続は力なり」というありがたいお言葉をいただいた事があります。私はこの言葉を座右の銘と同じくらい大切にしています。私が自分の短所だと思う部分にとても飽きやすいという事があります。「ちる」に入るまでの私は何に対しても強い興味を持つことが出来なかったのですが「ちる」で様々なことを学んでいく内に少しずつ自分の短所へ向き合い、勉強を楽しいと思えるようになりました。例え長続きしなく十勉強を楽しいと思えた今の気持ちを大切にしたく、私はより勉強を頑張りたいのです。

以上が私がこの高校に入ってやりたい事です。他にもまだ沢山あるのですがこ

の三つと、作文の最後に将来の夢についてお話し、作文を締めくくろうと思います。私には将来の夢が未だにありません。ですが先ほど書いた通り、私にはやりたい事が沢山あります。私は絵や文章を書く事がとても好きです。私の書いたキャラクターが「株式会社丸山製作所」という所で採用された事もあります。ですので、私はこれからの４年間で増えるであろう趣味や経験を活用し、自分が心から楽しく、得意分野を活かせる職業を見つけていきたいです。これが私の今思いつく最高の夢なのです。

２　講演会・報告会等の評価

（1）講演会

①第１回

期　日：令和５年 11 月 26 日（日）
時　間：13：30～16：30
場　所：東金商工会議所４階　中ホール
テーマ：「ＬＧＢＴＱと不登校への理解」
対　象：福祉・教育関係者及び一般対象
参加数：一般 28 名　、「ちる」運営者　８名　　計 36 名
講　師：沼倉　智美 氏
評　価：講演後に参加者に対してアンケートを実施
　　参加者 28 名中 21 名が解答　回答率 75％

問１あなたのことを教えてください。

性別

男性	女性
5 人	16 人

年代

20 代未満	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上
0 人	2 人	3 人	2 人	6 人	8 人

問２今回の沼倉智美さんの講演内容はいかがでしたか？

大変参考になった	参考になった	もう少し聞きたかった	物足りなかった	無回答
14 人	5 人	1 人	0	1 人

②第２回

共　催：東金市教育委員会
期　日：令和５年 11 月 28 日（火）
時　間：14：30～16：30
場　所：東金市役所５階　ホール
テーマ：「不登校と子どもの居場所」

参加者：一般、東金市内小・中学校教員
参加数：一般 10 名、小・中学校教員 38 名、「ちる」8 関係者名
合計 56 名
講　師：古山　明夫 氏
評　価：講演後に参加者に対してアンケートを実施
参加者 48 名中 44 名が解答　回答率 92%

問1あなたのことを教えてください。
性別

男性	女性	無回答
15 人	27 人	2 人

年代

20 代未満	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	無回答
0	7 人	13 人	8 人	11 人	4 人	1 人

問２今回の古山明夫さんの講演内容はいかがでしたか

大変参考になった	参考になった	もう少し聞きたかった	物足りなかった	無回答
32 人	7 人	0	0	5 人

③第 3 回
期　日：令和 6 年 2 月 24 日（土）
時　間：13：30～15：30
場　所：東金中学校　「清心館」
テーマ：ドリームビッグコンサート
講　師：ピアノ　中丸　円香 氏
アルトサックス　佐藤　洋佑 氏
テナーサックス　福田　ゆず子 氏
ボーカル　近藤　幸江 氏
ボーカル　ラジャビ　初音 氏
参加者：子ども「ちる」、「ゆーすぽーと」利用者、適応指導教室「ハートフルさんむ」利用者、郡内全域の小・中学校の別室登校者、郡内全域のフリースクール利用者等大人、利用する子どもの家族、利用者が関係する機関、「ちる」、「ゆーすぽーと」のボランティア等
参加数：子ども 19 名、大人 43 名、「ちる」運営者 9 名、合計 71 名
評　価：コンサートの後に参加者に対してアンケートを実施
子どもたちは感想文のみ。大人の参加者 43 名中 37 名が回答。
回答率 79%

問1あなたのことを教えてください
性別

男性	女性
7 人	30 人

年代

20 代未満	20 代	30 代	40 代	50 代以上
0	2 人	5 人	4 人	26 人

問２本日のコンサートはいかがでしたか。

非常に良かった	良かった	普通	あまり良くなかった	非常に良くなかった	無回答
31 人	2 人	0	0	0	4 人

問３会場の運営、申込み方法等について、当てはまるものにチェックを付けてください。

とても良い	良い	普通	やや悪い	非常に悪い	わからない	無回答
16 人	10 人	4 人	0	0	2	5 人

問4今回のコンサートは何でお知りになりましたか。

チラシ	知人	その他	無回答
3 人	18 人	15 人	1 人

(2) 報告会

①１回目報告会　一般対象

期　日：令和６年２月 24 日（土）
時　間：15：30～16：00
会　場：東金市立東金中　多目的ホール「清心館」
参加者：「ちる」・「ゆーすぽーと」利用者の家族、市内及び郡内全域の学校の別室登校者・適応指導教室利用者・フリースクール利用者の家族と上記施設スタッフ及びボランティア。一部一般の方々
参加数：43 名　「ちる」関係者 9 名
報告内容：「ちる」開設の背景と経緯
ＷＡＭ事業の説明
「ちる」の活動内容
「ちる」のこれまでの実績
「ちる」の今後　等

報告者：くつろぎの場ちる主任コーディネーター藤田実
評　価：「ちる」の活動報告の後に参加者に対してアンケートを実施。
43 名中 34 名が回答　回答率 79%

問1あなたのことを教えてください
性別

男性	女性
9 人	25 人

年代

20 代未満	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上
0	2 人	5 人	3 人	4 人	20 人

問２「くつろぎの場ちる」の活動報告はいかがでしたか

大変参考になった	参考になった	もう少し聞きたかった	物足りなかった	無回答
21 人	7 人	1 人	0	5 人

②第２回目報告会　関係機関・専門職対象
期　日：令和６年３月 11 日（月）
時　間：15：30～17：00
会　場：くつろぎの場ちる
講　師：古山　明夫 氏
評　価：「ちる」に関係する機関や専門職の方々と運営する法人スタッフ 14 名が参加して、最初にコーディネーターの藤田が「ちる」開設の経緯と活動状況について報告した。参加者全員が座談会形式で、「ちる」の役割、課題、方向性などについて話し合った。第 1 章に全文を掲載したが、概ね皆さんが肯定的に評価していた。

3　今後に向けた課題

①不登校及びひきこもり状態の子どもの類型化と専門的支援体制の確立

これまでの取り組みの中で、不登校及びひきこもり状態の子どもの状況と実態に関して理解し、支援を行ってきたつもりでいたが、子どもを取り巻く環境や生育歴、障がい等によって、より状態が深刻でかつより繊細な関わりが必要な子どもがいる実態が一定数あることが見えてきた。

相談支援やアウトリーチ等による個別支援の場面では問題はないが、場や複数の子どもとの関わりの場面においては、支援において難しさが生じると今年度の取り組みから実感した。

このことから、子どもの状態に合わせた個別支援を基本としながらも、専門的支援を進めるにあたっての原因や段階・進行度の類型化を図る必要

があると考える。
　類型化にあたっては、関係機関や心理等専門職等も交えながら、共通認識を図りながら進めていくことが重要であると考える。
　同時に、子どもの状態に合わせた専門的支援を行うためにも、家庭及び学校等の関係機関を含めた専門的支援を行う体制の確立が大きな課題である。

②子ども・家庭支援を中心としたチーム・ネットワークの継続

　今回の助成事業をきっかけに、学校や教育委員会、スクールソーシャルワーカー、自治体の子育て支援・福祉担当課等における、不登校及びひきこもり状態の子どもに対する支援や対応方法に関しての関心の高さと「なんとかしたい」という熱意を実感することができた。また、きっかけと調整を担う機関があれば、関係者がつながり、協働で取り組み、不登校及びひきこもり状態の子どもと家庭を共に支えていくことができる可能性があることも確認できた。
　一方で、子どもや家庭と直接かかわり支援を行うチームとそのチームを支える関係機関及び専門職のネットワークを維持するための担い手とその位置づけ、運営体制の確立が十分でない。そのため、今後、質の高い関わり・支援の継続を図っていくためには、中心的な担い手と位置づけが重要であると考えている。

③子どもを支援する「静」と「動」の場の確立

　今回の助成事業により、不登校及びひきこもり状態の子ども・家庭支援の場として「くるろぎの場ちる」を開設し運営してきた。
　元々当法人には、経済的に困窮していたり、何らかの困難を抱えていたりする家庭の子どもを対象とした子ども多機能支援拠点（通称：「学び舎・ゆーすぽーと」）があり、その利用の中にも不登校やひきこもりのケースが増加してきている。
　しかし、両方を運営しながら、立ち位置が違う２つの拠点が極めて有効に作用しあっていることに気づかされた。「ゆーすぽーと」を利用する子ども達は、家庭や学校以外の第３の居場所として「ゆーすぽーと」通ってくるが、時として、「ゆーすぽーと」に居ても、心が疲れてしまうことがあるため、その次の避難の場に「くつろぎの場ちる」は機能する。一方で、「くつろぎの場ちる」のような個別な対応を求めてきた子どもには、利用する中で、近隣にある「ゆーすぽーと」という場の集団への参加が、人との関わりの楽しさを実感したり、思い出させたりする場として「ゆーすぽーと」が機能する。
　２つの拠点は、近くにあっても別物である。ただ、両方を機能的に運営していくことで、今後も増大するであろう子ども・家庭の多様なニーズに対して、効果的に対応していくことができると考える。
　ただ、こうした拠点をバランスよく運営する専門性を持った人材と拠点の運営体制は課題である。

第３章　今後に向けて（まとめ）

今後に向けて

当法人が 2017 年よりＷＡＭ事業の助成を得て開設・運営してきた子どもの多機能支援拠点「学び舎・ゆーすぽーと」（以下「ゆーすぽーと」と略す）は７年を経過して、開設当初、主として対象にして来た生活困窮家庭の子どもに加えて不登校・ひきこもりや教室に入れない別室登校などの要因を持つ子どもたちの相談・利用も増加してきていた。もともと、東金・山武地域においては、不登校やひきこもり状態の子どもを受け入れる場は、ほぼない状態であった。

そうした背景があって、今回の令和４年度（補正予算）社会福祉振興助成事業の「コロナ禍で広がる不登校とひきこもりの子ども・家庭へのサポート事業」に応募するに至った。

本事業に取り組み、関係機関及び専門職の方々との関わりから、不登校とひきこもり状態の子どもとその家庭の実態は、深刻であること、地域での専門的な受け皿の開設を心待ちにしていたことを実感した。

一方で、これまでの取り組みの中で、不登校及びひきこもり状態の子どもの状況と実態に関して理解し、支援を行ってきたつもりでいたが、子どもを取り巻く環境や生育歴、障がい等によって、より状態が深刻でかつより繊細な関わりが必要な子どもがいる実態が一定数あることが見えてきた。そのため、当法人では既存の「ゆーすぽーと」では活動や交流を主体とした集団での人間関係構築のためのアプローチ拠点と、このたびの「ちる」の取組から見えてきた心の疲れやくつろぎを提供する拠点といった個々の特性や社会課題にも対応した多様な拠点のあり方も問われていることが見えてきた。家庭の状況、子どもの特性、学校や地域社会とのつながりといった社会環境など、個人因子や環境因子から捉えた課題の整理・類型化と支援や拠点とのマッチング等、さらなる深化が求められる。今後さらに支援の在り方を関係機関と共に検討発展させていくことが重要であると考える。

次年度に向けて、今回の事業に続く財源の確保については、本事業の助成を受ける段階での計画においては、助成事業終了後までに、本事業の取り組みに合致する補助・助成を受けて発展させたいと考えているが、現時点では、未確定である。

そのため、当法人としては、法人の独自財源と民間助成事業と寄附の複合により、支援の強化と発展を推進したいと考えている。

参考資料

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業　第１回　講演会

LGBTQ と不登校への理解

講師　沼倉智美（ぬまくらともみ）氏

●プロフィール
現在高校生のトランスジェンダーの子を持つ母親。
2018 年 1 月に「ちば LGBTQ フレンズ」を立ち上げた。
学校や日常生活での悩みを共有し前を向くための交流会や、社会的理解の向上を目的とした講演会やイベントを開催している。本職は児童発達支援事業所で働く作業療法士で不登校予備軍になりそうな子供たちや家族の支援をしている。

日時　：　2023年11月26日（日）13:30～16:30

会場　：　東金商工会議所　4F　中ホール
東金市東岩崎１番地5

スケジュール　：　13:30　開場　受付開始
13:50　挨拶
14:00　講演開始
16:30　閉場

参加費　：　無料　どなたでもお気軽に参加ください

定員　：　50名

申込方法　：　下記の①～③の内容を記載して、メール又は FAX にてお申し込みください

① 名前　② 所属名　③ 緊急連絡先

E-mail：usp@vega.ocn.ne.jp　FAX:0475-86-6544.　担当　永井

主催：特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎

（独）福祉医療機構
社会福祉振興助成事業
WAM助成

特定非営利活動法人
ちば地域生活支援舎
〒283-0802 千葉県東金市東金 425-2
http://www.chibasha.com

学び舎 ゆーすぽーと
学び舎　ゆーすぽーと（くつろぎの場　ちる）
〒283-0006 千葉県東金市東新宿 12-25
問い合わせ先　TEL：0475-86-6543
携帯：070-4083-7999
E-mail：usp@vega.ocn.ne.jp

性別にとらわれず「自分らしく」生きるために

～多様性を伝えることと、
生きにくさを抱える人への寄り添い方～

ちば・・・・・フレンズ代表　沼倉智美

自己紹介

沼倉　智美

ちば・・・・・フレンズ代表
トランスジェンダーの親
児童発達支援事業所勤務
作業療法士

振り返って見てください！
ジェンダーバイアスについて。

性別にとらわれずって、どういうこと？

男らしい

女らしい

「普通」っていう枠にとらわれた社会

男らしさ
女らしさ

個人の思い込み
（バイアス）

要点

性別にとらわれずってどういうこと？

男だから、女だからではなく
その人にとっての「自分」を尊重する

大多数の人たちは

生まれた時の体が男性➡心も男性

生まれた時の体が女性➡心も女性

好きになる対象は異性

多様なセクシュアリティ

・Ñ・× ソジー

Í » ¨¿ ´Ñ®»² ¿¬±² Ù»² ½® ¾»² ¬§

❶性自認	自分の性別をどのように認識しているか
❷性的指向	恋愛感情や性的関心の対象がどの性に向いているのか
❸体の性別	生まれた時の性、外性器、内性器
❹性別表現	服装や言動などで表現されるその人らしさ

セクシュアリティの分類

LGBTQ

・レズビアン	性自認が女性の同性愛者
・ゲイ	性自認が男性の同性愛者
・バイセクシュアル	両性愛者
・トランスジェンダー	生まれた時の性別と自認する性別が一致しない人
・クエスチョニング	自分のセクシュアリティを決められない、分からない

セクシュアリティの一例

性自認

Xジェンダー

性自認、性表現を
男性にも女性にも当てはめない

ノンバイナリー

性自認を
男性にも女性にも当てはめない

性的指向

アセクシュアル

恋愛感情は抱くが、
性的欲求は抱かない

パンセクシュアル

あらゆる人に
恋愛感情や性的欲求を抱く

セクシュアリティの人はどれくらい？

LGBTQの割合

10～13人に1人

※AB型、左利きの割合　10人に1人

‖

佐藤さん、高橋さん、鈴木さんと同じくらい

セクシュアリティの人はいない？

いない → いるけれど気付いていない

40人クラスに4人程度、当事者の児童生徒が存在する可能性がある

要点

多様なセクシュアリティ

人の数だけ、セクシュアリティはある

年齢、国籍、宗教、障害・・問わず、一人一人のセクシュアリティ

トランスジェンダーと性同一性障害（性別不合）

トランスジェンダーと性同一性障害（性別不合）

戸籍上の性別を変更できる条件

・生殖腺がないこと、または生殖腺の機能を永続的に欠く状態であること
・その身体について他の性別に係る身体の世紀に係る部分に近似する外見を備えていること

治療、手術を受けなければ性別変更できない

トランスジェンダーと性同一性障害（性別不合）

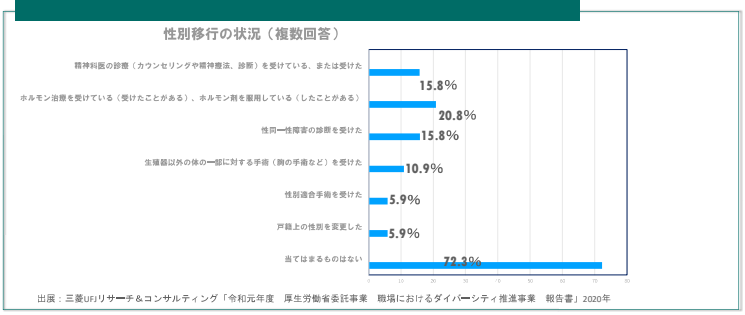
静岡家庭裁判所浜松支部の
関口裁判長より

「生殖腺を取り除く手術は生殖機能の喪失と言う重大で不可逆的な結果をもたらすものだ。性別変更のために一律に手術を受けることを余儀なくされるのは、社会で混乱が発生するおそれの程度や医学的見地からみても、必要で嫌合理性を欠くという疑問を禁じ得ない」

ï・ïï年・月ïï日 ・・・ ・・・・・・・より

トランスジェンダーの性別移行

性同一性障害の診断を受けたり、移行を進める人が多数派ではない



出展：三菱UFJリサーチ＆コンサルティング「令和元年度　厚生労働省委託事業　職場におけるダイバーシティ推進事業　報告書」2020年

社会の流れ

ï ççî 年　世界保健機関（・・Ñ）が同性愛を治療対象から削除
î・・í 年「性同一性障害の性別の取り扱いの特例に関する法律」が成立（日本）
î・・・年　世界初　同性結婚法が成立（オランダ）
î・ïë年「同性パートナーシップ」制度（渋谷区、世田谷区）
î・ïç年　アジア初　同性結婚法成立（台湾）
î・îî年　世界保健機関（・・Ñ）がトランスジェンダーを治療対象から削除

さまざまな「科学」の知見

医学的にも、同性愛は異常ではないことがすでに表明されている。
たとえば、世界的にも権威を持つアメリカ精神医学会による「精神障害判断基準」(Ü･¿･²±･¬･ ¿² ･ ･¬¿¬･¬･¿ ´･ ¿² ･¿ ´ Ü･･±････÷では、ï çç･ 年に同性愛･±³ ±･ ･ ¨･¿ ´¬§の項目が削除されている。また同年には世界保健機構(･ ･ Ñ)による「国際疾病分類」(×º ¬ ･² ¿¬±² ¿ ´･ ¿･････¿¬±² ±･ Ü･･･¿･･･ ¿² ･ ･ ･ ¿¬ ･ ･ ･¿ ´¬ ･ ･±･ ´³ ･ð× Ü÷
からも同性愛･±³ ±･ ･ ¨･¿ ´¬§の項目が削除され、「同性愛は治療の対象にはならない」と付記された。なお、日本ではï ççë年ï 月に日本精神神経医学会が× Üを尊重するという見解を出しているため、国内での公式な医学的見解も「同性愛は精神疾患ではない」と言うものであり、厚生労働省もこの見解を採用している。
また、性同一性障害も性別不合(･ ･² ･ ･ ･ ×º ･±² ･ ･ ･ ･² ･ ･の仮訳)として精神障害のリストから外す× Ü−ï ï がï ･î î 年ï 月から発効している。

生物学的に見れば、同性愛行動をとる動物は、人間に近い類人猿(ボノボやゴリラなど)のほかに、ペンギン、キリン、ライオンなど、多く(約ï ë･･種)に確認されている。

社会の流れ

国連人権委員会における潘基文国連事務総長のスピーチ

性的指向や性自認の話は、おおっぴらに話ことではないという人がいます。私にもよくわかります。私たちの世代の多くは、このようなテーマを議論するようには育ってきませんでした。しかし、私は語るようになりました。なぜなら、性的指向や性自認の話とは、命に係わる話だからです。そして、国連憲章と正解人権宣言の下で、世界中のすべての人々の権利をまもることが、私たちの責務だからです。私たちは、LGBTの人々が直面しているあらゆる暴力や差別を知っています。職場や学校、病院にも偏見が広まっています。性暴力を含むおぞましい暴力が振るわれ、人々は収監され、拷問され、ときには殺されてしまうのです。
････のみなさん。一つ私に言わせてください。あなたは独りぼっちではありません。暴力や差別を終わらせようとするあなたの闘いは、私たちの闘いです。今日、私はあなたとともにいます。すべての国々、すべての人々に向けて、あなたとともに立つよう呼びかけ続けるつもりです。歴史的な転換は、もう目の前にきています。私たちは暴力に立ち向かい、合意に基づく同性間の関係を犯罪とみなすのをやめ、差別を禁止し、人々を教育していかなければなりません。私はこの委員会や、良心あるすべての人々に期待します。その時が来たのです。

(î ðï î 年)

国の取り組みの変移

î ･･î 年　法務省「人権教育･啓発に関する基本計画」

性的指向が盛り込まれる

î ･ï î 年　内閣府「自殺総合対策大綱」

自殺高リスク層としてセクシュアルマイノリティが盛り込まれる

î ･ï ë年　文科省「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施等について」

セクシュアルマイノリティ児童生徒全般の悩みや不安を受け止める必要性を明らかにし、
具体的な配慮事項などをまとめた。

全国で教職員を対象にした「性的指向」と「性自認」について学ぶ研修が開催されるように

千葉市の動向(令和î 年)

制服の選択制の導入(みんなのスラックス)

１２％ → ２５％

市内の中学校55校のうち、昨年の7校から、14校に増えた。
高校制服の選択肢を設ける学校は把握できる範囲で600校を超える。
中でも北海道、東京に次いで千葉県は3番目に多い73校(全体の半分強)で実施している。

当事者の声

当事者の声(性的指向)

レズビアン

女の人が好きだっていうと、「一時の気の迷い」って言われる。
私は女性としか付き合いたいと思ったことがないのに。

ゲイ

ゲイだっていうと男友達から「好きにならないでね」とか言われる。
僕にも好みがあるし、それは異性愛の人も同じでしょ。

テレビやネットで得た知識で「同性愛の人ってこうなんでしょ?」なんて言われると困る。
どんなセクシュアリティでも人それぞれだよ。

アセクシュアル、アロマンティックの人たち

まだ未熟なんだよ

人間じゃないみたいだね

よく言われる一言

ï 人で生きてくってこと?

運命の人に出会ってないだけじゃない

当事者の声（同性愛者）

異性愛者のふりをすることによる心理的葛藤

・結婚話をすすめられたとき・孫の顔を早く見たいと言われたとき
・彼女いないの?と聞かれて、適当に話を合わせているとき
・テレビでホモネタを見て、周囲に合わせているとき
・彼氏のことを彼女と置き換えて話しているとき
・イケている男性を見て、「この人かっこいい」と友達の前で言えないとき
・ゲイの交友関係のことを気軽に話せないこと
・彼氏とおしゃれなレストランに行き周囲の目を気にするとき
・ゲイ雑誌を堂々と買えないとき
・「男は強くたくましくあるもの」という考えを聞かされた時
・低い声で「男らしく」話しているとき
・女の子に囲まれ、「両手に花だね」と言われたとき
・女性から好きだと言われ、うそをついたり話をそらすとき
・興味がない女性のことを、興味がるような言い方を自分がしているとき
・女性が接待してくれるお店に「付き合い」で行くとき

当事者の声（性自認）

・ ¬・

小学生のころから女の子の洋服が好きで、
赤いランドセルを背負っているお友達がうらやましかった

幼稚園の頃から女の子よりも男の子と遊ぶことが多くて、
ずっと自分は男だと言い続けてきた

・ ¬・

中学で自分の制服が女性用だったことに違和感を感じたので高校は私服の学校を選びました。
けれど男性になりたいわけでもなく、自分の性別を決めかねています。

トランスジェンダーの就学前～高校入学までの一例

就学前

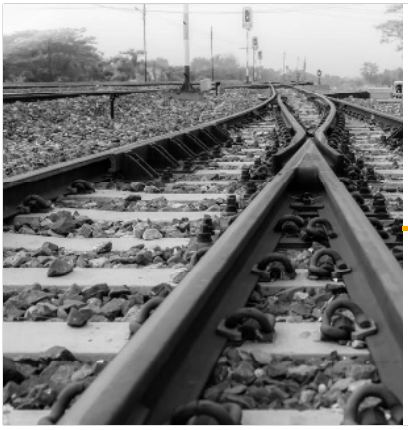
ï 歳半 「しんけんレッドになりたい」
年少　どうしておちんちんがないの?とí か月幼稚園から帰宅すると泣きじゃくる
年長　男子用の水着とラッシュガード、幼稚園以外では上半身は裸

就学後

小学校　黒のランドセルで登校
小ï　身障者用のトイレを使用する
小í　クラス替えのたびに、クラスのメイトにカミングアウトする
小ë　男子として体育に参加、制服変更に難航（前例がないと言われる）
小ë　成長（生理、胸、声変りをしない）に伴い、違和感に不安し夜な夜な泣く

中～高

中学校　男子用の制服で登校、男子として生活、多目的トイレを新設し使用
高校　男子用の制服の着用、学籍は女性だが男子としての生活を認められる



当事者の困難

当事者の困難

・からかいやいじめの対象になりやすい
「おとこおんな」「おかま」「ホモ」「レズ」「キモイ」など笑いのネタになりやすい

・自己否定感、自己嫌悪に陥りやすい
「こんなことを考えるなんて、自分は異常なのでは」

・違和感、ざわざわ感に常にさいなまれている
「体が女子だから女子の制服を着なければならない」

・将来に希望が持てず、常に不安な状態にある
「このまま大人になって就職できるの?社会で受け入れられないのでは?」

将来に対して、一切の希望が持てない

いじめ、暴力を受けていた　　自殺を考えたことがある

６８ò０％　　５８ò６％

うつ、不登校、自傷、自殺

当事者の困難

小学入学前に違和感を感じていた

５６ò６％

単位：人	全症例（ïïêé人）	ÓÌÚ（íïï人）	ÚÌÓ（éíê人）
小学入学以前	êêð（êêœ％）	ïïë（ííœ％）	êïë（éðð％）
小学低学年	ïëè（ïíœ％）	êé（ïëœ％）	çï（ïïð％）
小学高学年	ïïë（çòç％）	êê（ïíð％）	ëç（èð％）
中学生	ïïí（çœ％）	éì（ïéð％）	íç（êò％）
高校生以降	çï（éòç％）	éé（ïéòç％）	ïë（ïð％）

子ども当事者の現実

	トランスジェンダー	同性愛
自覚時期	小学校入学前：57％ 小学生：22％ 中学生：10％	なんとなく：ïíò歳 はっきり：ïéò歳
自殺念慮	不登校：îçò％ 自殺を考えた：ëèòê％ 自殺未遂：îèò％ 心の病気：ïêœ％	自殺を考えた：êëòç％ 自殺未遂：ïìò％ ※日高康晴・¬¿î・・é

マイクロアグレッション・・

・明らかな差別には見えなくても、ジェンダーや人種などのステレオタイプ・無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）に基づく発言や行動で、無自覚に相手を傷つけること

・日常的に「チクチク刺されるような痛み」を重ねることで、自尊心が育たない

例
・異性愛・性別二元論を前提とした日常会話
・当事者がいないものとされる風潮（例えば、「田舎だから」という理由で）

当事者の困難

教室	からかい、いじめの対象になりやすい	「おとこおんな」「おかま」「女らしくない」「ホモ」「レズ」「キモイ」「男らしくない」
授業	保健、体育、音楽	「思春期には異性への関心」に違和感 合唱のパート分け　体育の男女別学習
課外活動	性別による入部制限	合唱コンクールや体育祭も男女で分けられる
施設、設備	トイレや更衣室の利用	
事務手続き	提出書類などの性別記入	
進路指導	進路上不利にならないか不安	
相談	担任やスクールカウンセラーは聞いてくれるのか不安	

当事者の困難

教育	・担任の先生にカミングアウトしたら、翌日には親と教職員全員に広まってしまい、それぞれ問いただされた。明日からどうしたらいいんだろう ・職員会議で話題にされ、教職員の中でも具体的な対応策をどうするか決めることができず、はれもの扱いをされるようになった。 ・噂が広まってしまったことが原因でいじめられてしまった。学級会議の議題にされ、担任の先生にも「こいつも直そうと努力をしているんだ」と言われてしまい、ひどく傷ついた。
就労	・就活の際、結婚などの話題から性自認をカミングアウトしたところ、面接を打ち切られた。 ・終業後の飲み会で酔った上司から、「お前はホモか？気持ち悪いな。もっと男っぽくしろ」と怒鳴られた。 ・性自認に合ったトイレの利用ができない
公共サービス	・役所に行ったところ、窓口で「あんたんとこのお子さんレズなんやってね。育て方が悪かったんちゃうか」と言われた。 ・災害時の避難所での女性専用スペースの利用や、衣服などの物資の受給ができない ・公的な書類に不用意に記載された性別欄と外見の性別が異なるため、本人確認ができない理由で必要な行政サービスが受けられなかった。
民間サービス	・戸籍上の性別を男性から女性に変更した後に、ゴルフ場の会員になりたいと申し込んだところ、性別変更を理由に入会を断られた。 ・性自認に合った服装で生活していたところ、借りていたマンションの管理会社に呼び出され、「お前はオカマか。大家が気持ち悪がっているから、一か月以内に退去しろ」と言われた

自殺未遂や行動障害と弊害

・練炭自殺による未遂・・神経麻痺、重度の高次脳機能障害、重度の火傷

・リストカット・・・・・・・・・・腱や神経損傷による手首から手指にかけての機能不全

・ボディーステッチ・・・・・化膿性皮膚炎になる可能性、傷跡

・自傷行為・・・・・・・・・・・自分の体を痛めつけて、それによって生きてることを実感していることも。
耐性が出来やすくエスカレートしやすい

・摂食障害・・・・・・・・・・・拒食症、過食症

・睡眠障害・・・・・・・・・・・昼夜逆転

・他害行為・・・・・・・・・・・噛み付き、殴りかかる

・万引きや窃盗などの犯罪行為

・不登校や引きこもり

要点　カミングアウトされたら

感謝する

❶勇気を出して話してくれたことに感謝する

よく話してくれたね
ありがとう

整理する

❷支える姿勢を伝え、一緒に課題を整理する

どうしたいのか聞く
一緒に勉強して
理解していくからね

確認する

❸他者に相談（共有）してもよいか確認する

誰に話しているか
誰に話をしていいのか

アウティング（暴露）

**本人の了解なく、
その人のセクシュアリティについて
第三者に言いふらすこと**

個人の「セクシュアリティ」を本人の許可なく伝えてはいけない
本人の意思を尊重しない広め方に問題がある

アウティングの危険性

家族など身近な人に良かれと思って話してしまった

すでにカミングアウトされた人とまだされてない人が同席していた

カミングアウトはしていると言っても、どの程度しているのかは人それぞれ

アウティングの危険性

î・ï ë年　一橋大学アウティング事件

本人のタイミングでカミングアウトしたかったにも関わらず、
周囲の無配慮な拡散（アウティング）で精神的に追い詰められ自殺に至るケースもある

カミングアウトの注意事項❶

カミングアウトは必ずしなければならないのか？

→ ÒÑ！

※子供時代の性自認は揺れ動く。のちに性自認も変わることもある。
ここでカミングアウトして周囲に知れ渡ってしまい、後から後悔する場合も。
学校側からカミングアウトを促すことは厳禁！！

カミングアウトの注意事項まとめ

❶カミングアウトは**絶対じゃない**
❷「**アウティング**」の危険性と背中合わせ
❸何よりも**本人とご家族の意見**を尊重する
❹「**言い出せない**」**環境**になっていないか。
❺カミングアウト後の**具体的な配慮**についてよく話し合っておく

カミングアウト後の流れ

ケースバイケース

カミングアウト後の流れ

感謝
話してくれてありがとう

整理
配慮範囲
標準服の変更
ジャージ登校
トイレ、体育など
【学校での配慮に難航する場合】
教育委員会の教育指導課と相談をして配慮範囲を検討していく。

確認
周知範囲
児童、保護者と検討する
（教職員、他の生徒へ周知）
【カミングアウトする場合】
児童生徒への「多様性」の授業を行ったり、いろんな授業の中で日頃から様々なセクシュアリティがあることを伝えていく。

連携チーム結成
ご家族含めた支援を行う
【チーム】
相談を受けた教員
教頭
教務主任
学年主任
学年教員・・・
＋
【地域連携が必要な場合】
地域の支援団体
ソーシャルワーカー
相談支援員
民生委員
児童委員
※アウティングにつながらないように配慮！

カミングアウトは
ゴールではありません！！

スタートです！！

その先の道を進むために、伴走してください！

ジェンダー・ステレオタイプ

「男らしさ」「女らしさ」といった観念を基に男女の役割の固定観念、
イメージ、思い込み、概念、思考の型（タイプ）のこと

「女の子」：ピンク、清楚、しとやか、かわいい、おしゃれ、長髪、小さい、メイク、スカート、リボン、優しい、プリキュア、きれい、上品、華奢、家事
「男の子」：かっこいい、サッカー、筋肉、たくましい、うるさい、ズボン、運動、短髪、力強い、ゲーム、野球、強い、仮面ライダー、おもしろい、大きい、活発

ジェンダーバイアス

ジェンダーステレオタイプに何らかの評価や感情、態度、行動が加わったもの

「女の子」：女の子なんだからもっとおしとやかにしなさい
本当は青の物が欲しかったけど、女の子だからと、ピンクの物にされた
バイトがうまくいかなかったときに「これだから女はダメだ」と言われた
「女子は基本文系だろう」と言われてもやもやした。
「女は結婚したら仕事を辞めるんだからとりあえずの職につけばいい」

「男の子」：文系を選択したところ、「男子なら理系じゃね」と言われた
体育で持久走をやったときに「男子なんだから速く走れ」と言われた
学校で「男子は重いものをもって」と言われた
同性の後輩を可愛がっていたら「同性愛みたいなことにならないでほしい」という趣旨のことを親に言われた
男は良い大学に行くべき
男の子なんだから我慢しなさい、泣かない
男の子は強くなって守らないといけない

日頃から気をつけたいこと

個人として

・多様性を理解し、認められるように意識を持つこと
・・・・・・への肯定的なメッセージを折に触れて発すること
・・・・・・のみならず「国籍、障害など」で人を決めつけたり差別をしない
・それぞれの「ちがい」を認め合える社会作りをする
・性別役割分業意識（男だから）にしばられた発言をしない

不登校児支援

作業療法士 沼倉智美

・・・・・について、説明できる人、
手を挙げてください!!

みんなの前で手を挙げるのって、緊張しない??

なんで、緊張する?

学校に行きたくない

どうしたんだろ?
何か嫌なことがあったのかな?

「嫌なこと」探し、してませんか?

・いじめられてるのかな?

・勉強についていけてない?

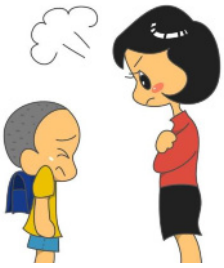
・怖い先生がいるのかな?

・友達がいないのかな?

・教え方が悪いのかな?

などなど・・

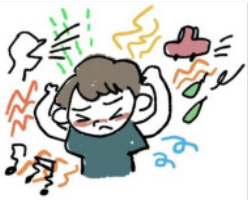
他責思考になっていませんか?



困らせる子たち・・

・授業中動き回ってしまう子
・静かにできない子
・消極的な子
・すぐに「先生、〇〇さんがね！」って言ってくる子
・姿勢が崩れる子
・やる気がない子
・宿題をやってこない子
・引き出しの中、ランドセルの中、ぐちゃぐちゃな子
・いつも怯えている子
・言葉も行動も乱暴な子

などなど



発達凸凹のあれこれ・・

・聴覚・・ざわざわ感、楽器の音、チャイムやサイレン、時計の音など
・視覚・・テレビやパソコンの画面、回っているもの、人ごみなど
・触覚・・肌ざわり、圧迫感、先端恐怖、握手、ハグ、ゾワゾワ感、人との距離感など
・嗅覚・・柔軟剤、石鹸、線香、バス、店の中、動物、化粧品など
・味覚・・レトルト、メーカによる味の違い、ねばねばなど
・平衡感覚・・ブランコ、エレベーター、船、バス、電車、車など
・固有感覚・・協調運動障害、距離感、他人が嫌がらないタッチの仕方の理解・・

「困った子」ではなく、

「困っている子」なんです。

そして、大人も困っているんです。。。。

だから、頼っていいんですよ！！

相談事業所、児童発達支援事業所、
放課後等デイサービスなどに声かけてください！！
うちでは見られない！と言われても諦めないでください！

学校に行きたくない
学校に行けない

には、理由があります！！

その**正体を知る**ことが大切！！
必ず、正体があります。

一つではありません！！

とにかく評価が大切です。

評価もアプローチも**ケースバイケース**です。

これが「正解」って言うマニュアルはありません。

ただ、目の前にいる人が、何に困っているのか、

それを深堀して、根源を知ると、正体を知ると、
少しずつ糸口が見えてきます。

その人の「幸せ」の道が見えてきます。

それでいいんじゃないかな。

あとは、その人自身が自分で切り開いていけばよい。

ちば・・・・・フレンズとは・・

「安心の土台」を作ることを基盤にした交流会
（ピアカウンセリング）

身近な人が自分の「好き」を閉じ込めたり、
不安な気持ちを押し殺したりしているかもしれない。

こどもも大人も、自分の「好き」を大事にしてほしい
そのために、多様性を広める活動を実施している。

交流会の内容

参加者：親子で参加するケースが多数。
高校生は一人で来る子も増えてきている
アライ（学校の先生や・・B、興味がありサポートしたい人、関わり方を学びたい人など）の参加も増えてきている

参加人数：ï ë人前後

スタイル：自己紹介の後、大人と子どもに別れる。大人チームは家族としての悩みや学校での対応の仕方の相談が主。

子どもチームは学校の話しや、押し活の話し、ゲームなどで談笑。時々、セクシュアリティの話題になるときもあるので、その時は、大人のファシリテーター（相談）が、話に参加する時もある。常時、大人の見守りが入るようになっている

イベント開催
「・・・・　Ñ Ñ・・」

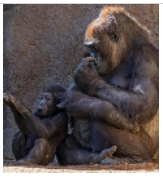
誰でも、
自分の
「好き」を
躊躇なく出せる
環境つくり

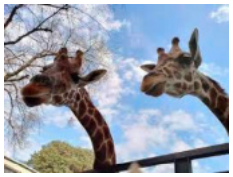
・・・・　・Ñ・Ñ・・　î・îí
ç月î 日
・Ñ・Ñさんとイベント開催!!

自分の「好き」を大事にする授業

～「多様性」を知る意味とは～

ちば・・・・・フレンズ
沼倉智美





自然界にも・・・

●人との距離感がつかめない！
嫌われたくない！
→嫌われたっていい!!
自分のことを好きでいてくれる人とお友達でいたらいい。
友達ï・・人なんていなくていい！

●話しかけるの苦手！
→名前〇〇さんと呼び掛けて、最後に♫で
印象・ﾋﾋ

●家、学校に居場所がない
→学校や家族以外にも居場所を作ってもいい、いわゆる寄せ集め集団の中じゃなくても、自分の趣味や興味のあることに目を向けて、自分の「好き」を大切にすればいい！
誰が誰を好きでもいい！

●失敗するの怖い
→大切なのは、成功することや失敗することの結果ではない。チャレンジすること。
失敗すると、傷つくけど、人の気持ちもわかって人にやさしくできる。失敗しても、魅力は変わらない！
むしろどんどん輝く!!

●今、幸せと思えない
→幸せ、ほめの基準は自分で決めていい!!

●どうせ私なんて
→過去に見てきたことや聞いてきたこと、言われたことって「どうせ私なんて」っていう不安や恐怖の証拠になりやすい。それは思い込み。
自分を信じていい、幸せと捉えるか、不幸と捉えるか、自分次第。
自分に「大丈夫」って言ってあげよう！人は悩むことは当たり前。
悩む時間は自分へのプレゼント。
苦しいけど、大切な時間なので、周りは見守ることを大切にしよう。

多様性を知るということ

マイノリティと言われている人たち

例えば、外国人、障害のある方、セクシュアルマイノリティ―

やはり特別に見られてしまう。

それに、見てしまう。

本当は自然のことなんだけどね。

でも、それは仕方ないの。

大切なのは、「その人」自身が、
その人の生きる道を楽しむこと。

生きてることが素晴らしいと思えること。

「生まれてきてよかった」と思えること。

例え、自分が当事者じゃなかったとしても、
自分が楽しく生きていくためには、
周りの友達や家族が楽しく生きていることが大切。

だから、自分に関わる人が楽しく生きられるように、
いろんな人がいるっていうことを
「知っている」
「理解していること」
がとても大切。

その友達が悩んでいるかもしれないしね。

人は一人じゃ生きられないから、
他人事ではないんだよ。
反対派の人もいるし、受け入れられない人もいる。
それも、その人の自由。
価値観の違い。

ただ、その価値観を押し付けないことが大事。
押し付けるから傷付くし、戦いになっちゃうの。

戦争も同じだよ。

多様性を知るということ

それは、

結局は

「自分の好き」

を、大事にすることなんだよ!!

自分のすき を だいじにしよう

まずは、自分が「自分らしさ」を大切にしよう。
そして、自分以外の人にも「その人らしさ」があることを考えてみよう。

誰だって、自分が自分であるために必要なものがある。
そんな「自分らしさ」「あなたらしさ」をお互いに尊重することができれば、

きっと世界はもっと広くなる。

「自分らしく」生きる

ありのままの「自分」を生きる

人の数だけ、生き方がある

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業　第2回　講演会

不登校と子どもの居場所

講師　古山明男（ふるやまあきお）氏

●プロフィール

1949 年千葉県生まれ。京都大学理学部卒業。

出版社勤務を経て、私塾・フリースクールを開き、学習支援と不登校の子どもとの交流に関わってきた。

オルタナティブ教育の啓発普及のための情報発信やネットワークづくりに努めている。

『古山教育研究所』代表、『おゆみ野の森でどんじゃらほい』世話人、『多様な学びを推進するためのネットワーク　愛称おるたネット』代表、『千葉市教育機会確保の会』代表

日時　：　2023年**11月28日**（火）15:00～16:30

会場　：　東金市役所　5F　会議室
東金市東岩崎 1 番地 1

スケジュール　：　14:30　開場　受付開始
15:00　挨拶
15:10　講演開始
16:30　閉場

対象　：　教職員・子どもの支援者

参加費　：　無料

申込方法　：　下記の①～③の内容を記載して、メール又は FAX にてお申し込みください
① 名前　② 所属名　③ 緊急連絡先
E-mail : usp@vega.ocn.ne.jp　FAX:0475-86-6544　担当　永井

主催：特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎　共催：東金市教育委員会

（独）福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 WAM助成

特定非営利活動法人 ちば地域生活支援舎
〒283-0802 千葉県東金市東金 425-2
http://www.chibasha.com

学び舎 ゆーすぽーと

学び舎　ゆーすぽーと（くつろぎの場　ちる）
〒283-0006 千葉県東金市東新宿 12-25
問い合わせ先　TEL：0475-86-6543
携帯：070-4083-7999
E-mail：usp@vega.ocn.ne.jp

不登校は「甘え、わがまま」ではない

古山教育研究所　2023年1月

不登校になり、その理由がはっきりしない子を、「甘え」「わがまま」と判断するのは間違いです。学校生活の辛さによる不登校には、次のような特徴があります。

・無表情・無反応である。

表情がない。呼びかけても反応しない。会話が成り立たない。
「甘え、わがまま」であれば、親にわかってほしいことがあるので、感情も意思も表してくる。

・ゲームしかしない。

通常であれば、一日中ゲームしかしないということはない。
学校や将来のことを話題にされるだけでも、辛くて閉ざす。

・学校に行こうとすると、朝起きられない。腹痛、頭痛、下痢などの身体症状がある。

午後になると症状が消えるので、仮病と思われがちだが、症状は現実である。

・自分の状況を説明できない。

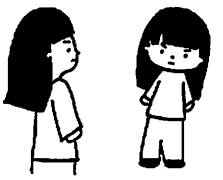
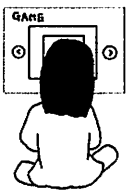
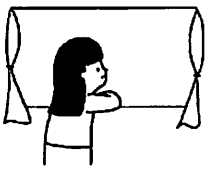
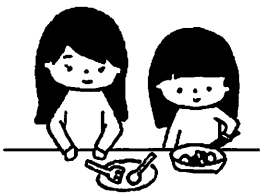
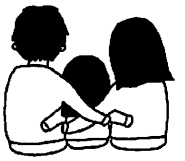
自分でも、学校に行けない理由がわからない。ポロポロと学校での出来事を言うこともあるが、どうしてその程度のことで学校に行けないのか、親にも理解できない。

・人と会うことを極端に嫌がる。

外出を嫌がる。人と会うことを嫌がる。特に同級生と担任を避ける。

以上のうち 3 つ以上あてはまるものがあったら、不登校に特有の自律神経の不調を考えてください。
「ポリヴェーガル理論」という最新の神経生理学が、不登校の子どもたちの状態を、うまく説明してくれます。人間も含めて動物は、逃げるもならず、闘うもならずという状況に追い詰められると、仮死状態になってしまいます。不登校は、仮死状態に近いのです。これは電気のブレーカーが落ちたようなものです。

必要なのは休養です。学校に行かないことを非難されなくなり、ちゃんと休養できれば、必ず回復します。回復にはどうしても数ヶ月～年単位の時間がかかりますが、しかし、そのままずっと引きこもりになったりはしません。

不登校の段階と対応　古山教育研究所 2023				
段階		様子		対応
1 行き渋り		むずかりが多くなる。 親や下の子にあたる。 「学校に行きたくない」と言う。 異様に甘える。 無意味なカラ騒ぎをする。		本人も何が何やらわからない 親の意見を言わずに聞く。 朝起きられないなどの身体症状がでたら、休ませる。
2 不登校になる		朝起きられない。 頭痛、腹痛。 本人も理由がわからない。 説諭すると暴言暴力。		休養が必要な状態。 「ゆっくり休みなさい」など、安全を保障する。 刺激を避ける。
3 引きこもる		ゲームしかしない 人との接触を極端に嫌がる 無表情、無反応		自分を取り戻すのに必要な休養期間。 声かけや日常のケアはあったほうがよい。
4 退屈する		ひまだ。 退屈だ。 家庭では特に問題ない。		外に出る手配を始めてよい。 無理はしない。退屈感そのものが、行動へと駆り立てるエネルギー。
5 自主的に生きる練習	個人的意欲	スポーツタイプ お絵かき、文芸タイプ 工作、実験タイプ 料理、家事タイプ 採集、飼育タイプ パズル、ゲームタイプ、など		自分らしさを取り戻す時期。 家庭内では問題ないが、外になじむまでは時間がかかることが多い。 学校に戻る場合もある。学校以外の場を手配したほうがよい場合もある。
	居場所、友達	フリースクール、学校復帰、習い事 体験活動、等		

＊子どもが小学校低学年（おおむね９歳以下）の場合、まだ引きこもってしまう力がなく、母親にすがりついている。大きな不安と恐怖を感じているためである。これは、いわゆる「親離れできていない」とは違う。引きこもり期に相当する。

不登校の段階と対応		古山教育研究所 2023		
		様子	**言葉にできるタイプ**	**対応**
1行き渋り		むずかりが多くなる。 グズグズする。 親をこき使う。 親や下の子にあたる。 「学校に行きたくない」と言う。 異様に甘える。 無意味なカラ騒ぎをする。	学校での嫌な出来事を言う。	心の奥を察する。 葛藤状態であることを理解する。 親の意見を言わずに聞く。 朝起きられないなどの身体症状がでたら、休ませる。
2不登校になる		朝起きられない。 頭痛、腹痛。 本人も理由がわからない。 説諭すると暴言暴力。	「行かない」「行きたくない」とはっきり言う	「ゆっくり休みなさい」など、安全を保障する。 刺激を避ける。
3引きこもる		ゲームしかしない 人との接触を極端に嫌がる 無表情、無反応	この時期はない	自分を取り戻すのにどうしても必要な休養期間。 必ず抜けるので心配ない。 ケアとコミュニケーション。
4退屈する		ひまだ。 退屈だ。 ゲーム以外の活動が入る。 家庭では特に問題ない。	この時期はない	手配をあわてなくてよい。 退屈感そのものが、行動へと駆り立てるエネルギー。
5自主的に生きる練習	やりたいことをする（一人一人のタイプがある）	スポーツタイプ 絵画的タイプ 工作、実験タイプ 料理、家事タイプ 採集、飼育タイプ 文芸タイプ パズル、ゲームタイプ など		自分らしさを取り戻す時期。 試行錯誤を認める。 学校に戻る場合もある。学校以外の場を手配したほうがよい場合もある。
	居場所、友達を求める	フリースクール、習い事、体験活動、学校の選択登校、等		

不登校の場合の高校進学手引き

中学で不登校の場合、高校進学が気になります。しかし、学力も内申も気にしなくていい高校がたくさんあります。それで、将来的な不利益は特にありません。また、高校卒業程度認定試験は、誰でも受けられ、さほど難しくなく、費用も安いです。中学時代にあせらなくても、教科書的な学力は、高校生年齢になってから無理なく身につけられます。

（千葉県の場合　古山教育研究所まとめ）

コース	特色	入学時学力	内申	備考	費用	実例
全日制高校	普通に進学する場合と変わらない	それぞれの高校に応じて必要	内申：不登校生徒のための自己申告制度がある（公立、県別）		118,800円(県立、年額)	各公立高校、各私立高校
定時制高校	中学不登校受け入れ校が多い	ほぼ不要	内申：不登校生徒のための自己申告制度がある（県別）（私立は独自）	夜間定時制 昼間二部定時制 三部制	公立授業料 13万円（卒業まで） 私立授業料 年10～40万円	生浜高校
広域通信制高校	スクーリング、レポート、テストで成り立っている。学校ごとに特色がある。	ほぼ不要 転入を受け入れる	実質不要	スクーリング 年間20日～25日程度	NHK学園 78,000	N高、NHK学園、八洲学園、など。全国で125校（2018年）
通信制＋サポート校	高校生活を味わうことができる。通学。勉学系、絵画系、音楽系などいろいろ。内容は良い。費用が高い。	ほぼ不要	実質不要		年100～150万円	おおぞら高等学院 トライ式高等学院 他　多数
単位制高校	留年が生じにくい。通信制高校は単位制高校。					
高卒認定	難しくない。安い。 年2回ある。少しずつ合格すればよい。	不要	なし	年2回　8月と11月 科目数　8～9科目	3科目以下 4500円 4～6科目 6500円 8～9科目 8500円	
高卒認定＋予備校	塾通いと同じ	不要	なし		高認受験料＋予備校費用	四谷学院 第一高等予備校 J-Web School 河合塾COSMO 中央高等学院
高卒認定・通信制高校併用	高校で取得した単位と、高認の合格科目は、相互に振り替えられる。	不要	なし		高認受験料＋通信制費用（単位あたりで払う）	

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業　第3回　講演会

子どものための
ドリームビックコンサート♪
＆ くつろぎの場ちる 報告会

日時 ： 2024年2月24日（土）
13:30～16:00

会場 ： 東金中学校　清心館
東金市堀上 111

参加費 ： 無料

スケジュール ： 13:30　開場　受付開始
13:50　挨拶
14:00～15:30　コンサート開演
15:30　報告会
16:00　閉場

佐藤洋佑

ジャズサックス奏者として渡米し 2011 年度～2016 年度にグラミー賞を 2 度受賞、ノミネート 4 度。これまで数百に上る世界各国のジャズ・フェスティバル等に参加、世界的に高い評価を得た。2015 年末に帰国し日本、海外での音楽活動を続ける。

近藤幸江

福田ゆず子

中丸円香

ジャズピアニスト　作曲家　編曲家　講師　Nene Music School 代表
Jazz＆Bar Clipper(千葉みなと)ブッキングマネージャー
幼少の頃からピアノ、エレクトーンを始め、大学から本格的にジャズピアノを学び、大学卒業後、演奏活動を開始

申込方法 ： 下記の①～③の内容を記載して、メール又は FAX にてお申し込みください
① 名前　② 所属名　③ 緊急連絡先
E-mail：usp@vega.ocn.ne.jp　FAX:0475-86-6544　担当　永井

主催：特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎　共催：東金市教育委員会

（独）福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

特定非営利活動法人 ちば地域生活支援舎
〒283-0802 千葉県東金市東金 425-2
http://www.chibasha.com

学び舎 ゆーすぽーと

学び舎　ゆーすぽーと（くつろぎの場　ちる）
〒283-0006 千葉県東金市東新宿 12-25
問い合わせ先　TEL：0475-86-6543
携帯：070-4083-7999
E-mail：usp@vega.ocn.ne.jp

【説明資料】

令和５年度「くつろぎの場ちる」の活動

くつろぎの場ちる

独立行政法人福祉医療機構（ＷＡＭ）の社会福祉振興助成事業

（１）開設の経緯

① ゆーすぽーと利用者に不登校や別室登校者の増加

② 不登校の子の相談の増加

③ 市内小中学校の不登校者数の増加

（２）「ちる」の活動

① 静かで安心して過ごせる居場所の提供

提供日：週３回月・水・木

時　間：13:00～19:00

② カフェの開催（月１回）　近日、令和６年３月 11 日開催

③ 相談

④ アウトリーチ

⑤ 啓発活動（講演）3 回

第１回　11 月 26 日（日）、東金商工会議所４階　中ホール　31 名参加

テーマ：「ＬＧＢＴＱと不登校への理解」

講師：沼倉智美氏

第２回　11 月 28 日（火）、東金市役所５階　ホール　　55 名参加

テーマ：「不登校と子どもの居場所」

講師：古山明夫氏

東金市教育委員会と共催で教職員の参加 36 名

第３回　本日２月 24 日（土）、東金中学校　清心館

テーマ：「ドリームビッグコンサート」

「ちる」及び「ゆーすぽーと」利用者及び保護者などを対象に演奏会を行い、演奏の合間に演奏者の皆さんから子どもたちに「安らぎの言葉」や「世界が広がる言葉」などを直接語り掛けて頂く場にしたい。

講師：中丸円香氏・佐藤洋佑氏・福田ゆず子氏・近藤幸子氏

⑥ 「ちる」活動報告会の開催

第１回　２月 24 日（土）　一般対象

コンサート終了後　令和５年度の活動報告

第２回　３月 11 日（月）　関係機関及び関係専門職対象　　予定

くつろぎの場ちるの成果と課題及び次年度の方向性を語る会

⑦ 東金市小・中学校長欠・教育相談連絡会議への出席

（３）「ちる」登録者

① 「ゆーすぽーと」からの継続・・・・10 人

② 新規登録者・・・・・・・・・・・・・５人

（４）「ちる」支援体制

職　名	氏　　名	備　　考
コーディネーター	藤田　　実	
	永井　祐美	
	猿田　　恵	精神保健福祉士
	吉田　敦子	社会福祉士・精神保健福祉士
	福島　邦英	
	平田　裕人	

OPEN!

くつろぎの場　ちる

みんな大切な人

自分らしくのびのびと本来の姿をとり戻せたらいいなぁ

リスタート

ひきこもり

生きにくさ

学校に行けない

言葉にできない

親の思い

自分らしさ

子どもの気持ち

ちるcafe

何を話しても大丈夫な場

◆毎月第４月曜日開催予定

◇13:00～15:00

大人も子どももみんな無料

みんなで安心・安全な場を創る

無料相談

不登校・学校のこと・その他

◆予約制にて

訪問相談・オンライン相談

リアル相談を承ります

◇月曜日・水曜日

日時は応相談

講演会

不登校をテーマに

子どもがその子らしくいる為に

私たちができることは何か

◆年に３回

講師の先生をお招きします

◇ 詳細は追って連絡いたします

（独）福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

特定非営利活動法人
ちば地域生活支援会
〒283-0802 千葉県東金市東金 425-2
http://www.chibasha.com

学び舎 ゆーすぽーと

くつろぎの場　ちる
〒283-0006 千葉県東金市東新宿 12-22
問い合わせ先　TEL：0475-86-6543
携帯：070-4083-7999
E-mail：usp@vega.ocn.ne.jp

生きにくさを感じている
子どもやその親が、
のびのびと自分らしさを
感じられる場所

このような方へ

- 不登校
- 引きこもり
- 学校に行きたくない
- 誰かに話を聞いてほしい
- フリースクールにも行きづらい

活動概要

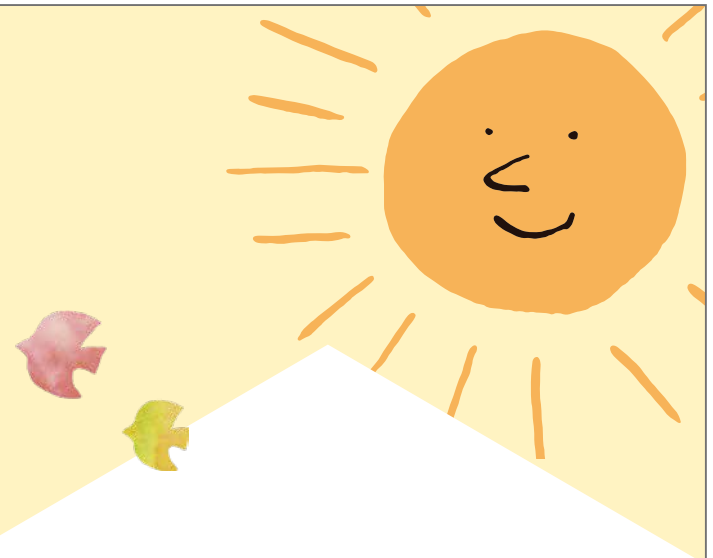
名称	くつろぎの場 ちる
事業内容	不登校の子どもたちと 親のための居場所の運営
施設管理者	藤田 実
運営団体	特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎

くつろぎの場 ちる

〒283-0006
千葉県東金市東新宿12-22

TEL：0475-86-6543
携帯：070-4083-7999
https://youthport-chill.com/

（独）福祉医療機構
WAM助成
社会福祉振興
助成事業



くつろぎの場 ちる

みんな大切な人
自分らしくのびのびと
本来の姿をとり戻せたらいいなぁ

特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎

ちるcafeご案内

ほっとできる安心な場としてカフェを開催しています。
なかなか周囲に話せず悩んでいる方、外出したいけどなかなか難しい方、気分転換したい方お気軽にご参加ください。
一人で参加もOK・ご家族と一緒も大歓迎です。
お茶を飲みながらお話ししたり、本を読んだり自由にすごしてくださいね。
キッチンがあるのでちょっとしたお料理も出来ますよ。
お子さんも一緒にいらっしゃる方は、心配なことや配慮してほしいことなど、気兼ねなくお伝えください。
ゆったりと過ごせる空間になるようにしてまいります。

開催日： 毎月第4月曜日
※この日以外にも毎週月・水・木曜日対応できます。
お問い合わせください。

時　間： 13：00～15：00

費　用： 無料

申込・問合せ： 電話かHPからどうぞ

くつろぎの場ちるってこんな場所

ちるcafe

「何を話しても大丈夫な場所」
大人も子どももみんな無料、
みんなで安心・安全な場を創る。

毎月第4月曜日　13:00～15:00

無料相談

「不登校・学校生活のこと・その他」
予約制にて訪問相談・オンライン相談・
リアル相談を承ります。

毎週月曜日・水曜日　*日時は応相談

講演会

「不登校」をテーマに、子どもがその子らしく
いるために私たちができることは何か。
講師の先生をお招きします。

不定期開催　*ホームページでご案内

アウトリーチ

自らSOSを出せない子どもたちや、
保護者の困りごとをキャッチすべく
自宅や生活場面に出向き訪問支援を行っています。

毎週月曜日・水曜日　*日時は応相談

くつろぎの場 ちる

生きにくさを感じている子どもやその親が、
のびのびと自分らしさを感じられる場所

このような方へ

- 不登校
- 引きこもり
- 学校に行きたくない
- 誰かに話を聞いてほしい
- フリースクールにも行きづらい

くつろぎの場ちるってこんな場所

ちるcafé

「何を話しても大丈夫な場所」
大人も子どももみんな無料、みんなで安心・安全な場を創る。

●毎月第4月曜日：13:00〜15:00

無料相談

「不登校・学校生活のこと・その他」
予約制にて訪問相談・オンライン相談・リアル相談を承ります。

●月曜日・水曜日　*日時は応相談

講演会

「不登校」をテーマに、子どもがその子らしくいるために私たちができることは何か。講師の先生をお招きします。

●年に3回開催予定

アウトリーチ

「自らSOSを出せない子どもたちや、保護者の困りごとをキャッチすべく自宅や生活場面に出向き訪問支援（アウトリーチ）を行っています。

●必要に応じて随時

基本情報および事業内容

事業名	くつろぎの場ちる
事業内容	不登校の子どもたちと親のための居場所の運営
施設管理者	藤田 実
所在地	〒283-0006 千葉県東金市東新宿12-25
運営団体	特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎

（独）福祉医療機構
社会福祉振興助成事業
WAM助成

平成29年度社会福祉振興助成事業 「子どもの自立・自律と共生事業」
平成30年度社会福祉振興助成事業 「子どもの居場所とパーソナルサポート事業」
2019年度社会福祉振興助成事業「子どもを地域で包括的に支援するアウトリーチ型多機能拠点づくり事業」
令和2年度社会福祉振興助成事業 「子ども多機能型支援拠点の普及・推進事業」
令和4年度補正予算 社会福祉振興助成事業 「コロナ禍で広がる不登校とひきこもりの子ども・家庭へのサポート事業」

くつろぎの場 ちる

OPEN
3/11

ちるcafe

何を話しても大丈夫な場

〇場所　東金市東新宿 12-25
◇日時　3月11日（月）
　　13:00～15:00
☆申込　お電話またはメールにて
　　お申込みください

大人も子どももみんな無料
みんなで安心・安全な場を創る

安心してお越しください
お待ちしています

学校に行けない　自分らしさ　言葉にできない

子どもの気持ち　生きにくさ　親の思い　ひきこもり

（独）福祉医療機構
社会福祉振興
助成事業
WAM助成

特定非営利活動法人
ちば地域生活支援舎
〒283-0802 千葉県東金市東金 425-2
http://www.chibasha.com

学び舎 ゆーすぽーと

学び舎　ゆーすぽーと（くつろぎの場　ちる）
〒283-0006 千葉県東金市東新宿 12-25
問い合わせ先　TEL：0475-86-6543
携帯：070-4083-7999
E-mail：usp@vega.ocn.ne.jp

独立行政法人福祉医療機構・令和４年度（補正予算）社会福祉振興助成事業
「コロナ禍で広がる不登校とひきこもりの子ども・家庭へのサポート事業」
報告書

発行日　令和６年３月 31 日
発行者　特定非営利活動法人ちば地域生活支援舎
〒283-0802 千葉県東金市東金 421 番地
Tel:0475-53-3630／Fax:0475-53-3631

※無断コピー及び転載を禁じます。コピー・転載・引用等される際には、必ずご連絡いただきますようお願いいたします。